

《史料研究》

歴史教育研究所編『歴史教育研究』（1956～2002年）総目次

茨木 智志

1. 歴史教育研究所と『歴史教育研究』について

『歴史教育研究』は、歴史教育研究所の編集により発行された1956年9月の第1号から2002年3月の第80号までの78冊（2回の合併号を含む）の歴史教育のための研究所紀要である。

歴史教育研究所は、東京大学教養学部の西洋史学者・吉岡力（よしおか つとむ：1908～1975年）が同学部の裏門近くにあった自宅内に1954年2月に15名の発起人とともに開設した民間の教育研究所であった¹。「学問的基礎に立つ正しい歴史教育の発展をはかる」「歴史教育者、歴史学者、各関係者たちの懇親をはかる」（「定款」）ことを目的に活動を始め、1956年9月に研究所紀要として『季刊歴史教育研究』第1号を発行した。

紀要の内容の中心となるのは、座談会あるいはシンポジウム等の記録である。ここでは歴史教育・歴史学に関わる様々なテーマが取り上げられ、歴史教育者・歴史学者による熱心な討論が繰り広げられている。戦後の歴史教育の論点がほとんどすべて網羅されている。特に1960年代前半までのそれぞれの特集が興味深い。これに加えて、紀要では個別の論考や各種の報告、書評・図書紹介、研究所に関する記事等が掲載されている。

後に年3回の発行となり、1970年2月の第51号からは「季刊」の文字が誌名から外された。1970年10月から1973年2月までの吉岡の移転にともなうビルの再建築による研究所の休館と紀要発行の停止の時期を経て、1973年9月の第53・54号合併号として再開された。しかし、1975年10月には所長の吉岡の急逝²により旧吉岡邸ビルに設置されていた研究所の維持が難しくなり、1977年からは法政大学第二高等学校のPTAの会である育友会の支援と同校の場所の提供を受けて、同地に移転することとなった³。その前後の時期から年2回の紀要発行となり、1984年12月の第70号からは年1回の発行となる中で研究所の活動は継続されていたが、2001年に歴史教育研究所は法政大学第二高等学校育友会教育研究所に統合され、2002年3月に第80号を発行して終刊となった。

¹ 場所は、東京都渋谷区代々木富ヶ谷町1456。後に町名変更により渋谷区神山町24番9号。

² 歴史教育研究所の所長は、1976年度からは清水勝太郎が務め、1980年度からは荒井信一が務めた。

³ 場所は、神奈川県川崎市中原区木月大町164（後に6番地1号）。

2. 『歴史教育研究』について

このように『歴史教育研究』は、歴史教育研究所の47年間の記録である。『歴史教育研究』の内容には、歴史教育研究所が出版社等とは関係のない純粋な民間の教育研究所であることが反映している。第一に、多様な歴史教育者・歴史学者が集まっていることである。大学・高校・中学の学校間の壁、西洋史・東洋史・日本史の専攻の壁、そして世代の壁を越えた人々の交流の場となっている。また、記事を見ると広く日本各地からの声も多い。そして、第二に、自由な検討の場になっていることである。特に、上述した座談会やシンポジウムでの討議は大変に興味深く、また書評等でも授業や現実の学校現場の視点からの厳しいものが多い。

創刊された1956年は敗戦(1945年)から10年あまり、新制高校で「日本史」「世界史」の授業が開始(1949年)されてから7年ほどの時期である。「世界史」は新しい科目であり、「日本史」も戦前とは異なる新しい内容と方法を必要としていた。1952年からは「試案」ながら両科目の学習指導要領が発行され、両科目の検定教科書の使用が始まる。また1955年・1956年には中学・高校の社会科学学習指導要領が「試案」の文字を外して改訂されている。このように歴史教育が制度的にある意味で整備されつつあるのと同時に、それとは別に、世界や日本の現実から“今”に相応しい歴史教育が模索され始めた時期でもあった⁴。このような意識を持った熱意ある若い中学・高校の歴史教師たちや大学の歴史研究者たちの活動する場のひとつを提供したのが歴史教育研究所であり、『歴史教育研究』であったと考えられる。

『歴史教育研究』に掲載された記事は、戦後における歴史教育に対する検討の集積であり、ここでの熱心な活動はその後の歴史教育の基盤をなしてきたものと考えられる。戦後の歴史教育に関する重要な過去の資料であるばかりでなく、現在も参照すべき歴史教育への探求の成果である。当然、歴史教育の模索は今も継続している。その意味で、『歴史教育研究』での先学の取り組みをいかに踏まえるべきかが現在において問われている。総目次の作成が『歴史教育研究』の活用を促進する契機となることを願っている。

3. 法政大学第二高等学校の育友会教育研究所について

歴史教育研究所の蔵書は、法政大学第二高等学校の育友会教育研究所に受け継がれて、一般に公開されている。ここで取り上げた『歴史教育研究』の全冊はもちろん、1950年代以降の膨大な量の社会科教科書・歴史教科書、歴史教育や歴史学に関わる多くの書籍、歴史教育研究所等に関係した人々から寄贈された書籍や資料を閲覧するこ

⁴ 日本書院から『歴史教育』第1巻第1号が1953年9月に発行され、歴史教育者協議会から『新しい歴史教育』創刊号が1953年11月に発行されている(1954年8月からは『歴史地理教育』となる)。また、熊本大学の酒井一郎を中心とする世界史研究会も『世界史研究』創刊号を1952年11月に発行している。

とができる。また、外国の歴史教科書や戦前の植民地での教育に関わる教科書（特に関東州）、戦前の教科書、敗戦直後の暫定教科書などの貴重な資料も多数が所蔵されている⁵。

付記

総目次作成に当たり、法政大学第二高等学校育友会教育研究所長の八木橋正之氏のお許しを頂き、調査に際しては研究所事務室の遊座絹代氏、同校講師の齋藤一晴氏の格別のご協力を仰いだ。また、本稿作成に際しては荒井信一氏のご校閲を賜った。ここに記して感謝申し上げます。

⁵ 法政大学第二高等学校育友会教育研究所は、週3日（月・水・金）、10時から17時まで開室されている。訪問や閲覧に際しては、同研究所（電話：044-711-4321）に照会されたい。なお、育友会教育研究所に関しては、法政大学第二高等学校のホームページ（<http://www.hosei2.ed.jp/hs/hs-index.html>）からも参照できる。

歴史教育研究所編『歴史教育研究』（1956～2002 年）総目次

凡例

- ・記事名、著者名（所属等）、掲載ページの順で記載した。
- ・一部の記事名等は「歴史教育研究総目次（1～64 号）」（歴史教育研究所）の表記を参考にした。
- ・括弧書き・頭文字等での著者名表記や肩書の略記は原文のままである。
- ・ページ番号の記載のない部分は、適宜に補う形で掲載ページを記載した。
- ・記事の掲載順を基本としたが、歴史教育研究所に関わる記事や短い記事は一行空けて後半にまとめた。
- ・座談会や討論、シンポジウム等の参加者の記載は省略した。
- ・誤植と思われるものは一部、訂正した。また、略字も修正した。二行に割り書きされたものは一行で表記した。
- ・〔 〕は総目次作成者による補注である。

第1巻 1956 年 9 月 特集 世界史教育の問題点 『季刊歴史教育研究』

発刊に際して、吉岡力（歴史教育研究所長）、1
報告と討論 世界史研究及び世界史教育の問題点—主として教育の側から—
報告 吉田悟郎、2～9 討論、9～12 レジメ、12～15
世界史教科書批判、歴史教育研究所、16～22
役に立つ世界史を、中屋健一、22～24
高校における世界史教育—全国調査のアンケートから—、（大江一道）、24～26
イスファハンから、三笠宮崇仁、27

研究所活動、27～29 読者へのお願い、29 訃報、29 定款、29～30 歴史教育研究所評議員、30～31 編集後記、（大江）、31

第2巻 1956 年 12 月 特集 日本史教育の実践

巻頭言、尾鍋輝彦、1
日本史教育の実践、日本史教育研究会
第一部 研究授業の報告、2～7 第二部 日本史教育研究会の理論と実践、7～21
高橋碩一著「歴史教育論」をめぐって、22～26
アジアを旅して、三笠宮崇仁（東京女子大学講師）、27～29
ロビンソン教授とロシア研究所、岩間徹（東京女子大学教授）、30～31

歴史教育研究所利用規定、21 研究所便り、32 寄贈図書、32 読者の声、33～34 編集後記、（清水）、34 歴史教育研究所評議員名簿、35

第3巻 1957 年 3 月 特集 世界史教育におけるイギリス史の諸問題

巻頭言、藤木邦彦、1

世界史教育におけるイギリス史の諸問題

討論、2～11 イギリス史に関する質問、12～19 イギリス史によく見られる誤ち、今井宏、19～20

三重県における歴史教育の動き

私の自己展開学習、筑紫申真（三重県立亀山高等学校教諭）、21～22 われわれの修学旅行記、菱刈隆永、23～25 自らを省みて、水口敏之、25～26 よろこびのあまりに、清水勝太郎、26～27

対談 中近東の文化を訪ねて、三上次男（東大教授・東亜考古学）・吉岡力、27～31

書評 世界史講座第八巻―世界史の理論と教育―〔東洋経済新報社〕、大江一道、31～33

研究所だより、22～23 寄贈図書、33 読者の声、33 編集後記、（大江記）、34 講読希望の方へお願い、34 歴史教育研究所評議員名簿、35

第4巻 1957年6月 特集 東西交渉史の諸問題

巻頭言、三上次男、1

世界史教育における東西交渉史の諸問題、座談会、2～23

北欧と古代オリエントの関係についての最近の論文の紹介―琥珀によせて―、三笠宮崇仁、24～28

大学入試問題をめぐって、座談会、29～40

読者の声、40 研究所便り、41～42 寄贈図書、41 編集後記、（荒井記）、42 購読者へのお願い、42 歴史教育研究所評議員名簿、43

第5巻 1957年9月 特集 視聴覚教育の問題点

巻頭言、藤田重行、1

歴史教育と視聴覚教育、座談会、2～16

高校における視聴覚教育の実践―日比谷高校における経験から―、大谷浩三、17～20

歴史教材としての紙芝居、佐藤伸雄（歴史教育者協議会委員）、20～22

自己展開学習による鎌倉時代の学習についての往復書簡、菱刈隆永（駒場高校教諭）・前嶋雅光（兵庫県芦屋高校教諭）、23～30

歴史教育雑誌の批評と紹介

“HISTORY”誌について、明石総一、31～34 “歴史教学”について、小島晋治（私立独協学園教諭）、34～36

ソヴィエトからの手紙、36～37 下関通信、吉岡力、38～39 研究所便り、39 読者の声、40～41 寄贈図書、41 講読料について、42 編集後記、（大江記）、42 歴史教育研究所評議員名簿、43

第6巻 1957年12月 特集 東西交渉史の諸問題―世界史におけるインド・南アジア―

巻頭言、芳賀幸四郎、1

東西交渉史の諸問題―世界史におけるインド・南アジア―、座談会、2～13

高等学校における歴史教育の方法—日本史自己展開学習—、倉田康夫（三重県立亀山高校教諭）、13～24

洋菓子の歴史、菅野哲治、25～27

合衆国下級学校におけるアメリカ史教育、森克巳（東京都立大学教授）、28～30

書評 「子供に教える正しい日本史」〔歴史問題研究会〕、清水勝太郎、30～32

近刊紹介 三笠宮崇仁著「乾燥の国—イラン・イラクの旅」〔平凡社〕、吉岡力、32～33

近刊紹介 ゲルハルト・リッター 島田雄次郎「教育力としての歴史」〔創文社〕、大江一道、33～35

歴史教育雑誌の批評と紹介（二）

「学問と教育における歴史」（Geschichte in Wissenschaft und Unterricht）誌について、松俊夫（東京都立大学附属高校教諭）、35～37 学校における歴史（Geschichte in der Schule）誌について、阪東宏（埼玉県立浦和第一女子高校教諭）、37～39

読者の声、40～41 寄贈図書、41 研究所便り、42 購読者へのお願い、42 編集後記、（荒井）、42 歴史教育研究所評議員名簿、43

第7号 1958年3月 特集 日本史と世界史の統一的把握

巻頭言、岩間徹、1

シンポジウム「日本史と世界史の統一的把握」をめぐって

報告Ⅰ 世界と日本—生徒の歴史感覚から—、吉田悟郎（都立広尾高）、2～4 報告Ⅱ 鎖国と開国が教科書でどう扱われているか、水口敏之（都立八潮高）、4～7 講演、上原専禄（一橋大教授）、8～15 討議、16～22 感想 中学教師の実践から、吉村徳蔵（板橋区立上板橋一中）、23～26

ターナー・フサイナー—エジプトの埒保己—、前嶋信次、26～27

江戸小咄寸描、藤木邦彦、28～31

書評 堀田善衛「インドで考えたこと」〔岩波新書〕、高橋碩一、31～33

書評 歴史学研究会日本史研究会編「日本史学史」（日本歴史講座第八巻）〔東大出版会〕、水口敏之、33～34

斉藤秋男氏中国視察談のおこぼれ、（文責 久坂）、34～36

インド便り、井上光貞、36～38

ロスぼけの記、岸辺成雄、38～40

歴史教育雑誌の批評と紹介（三）「学校における歴史教育」（Prepodavanie istorii V shkole）誌について、米川哲夫（東京女子高校教諭）、40～42

読者の声、43 研究所便り、43～44 編集後記、（荒井記）、44 寄贈図書、44 歴史教育研究所評議員名簿、45

第8号 1958年6月 特集 明治時代の評価について 昭和33年度大学入試問題をめぐって

巻頭言、前嶋信次、1

座談会 「明治」時代の評価をめぐって、2～11

昭和三十三年度大学入試問題をめぐって

合格者による入試問題の批判と感想、12～16 出題者側の感想と要望、藤木邦彦・芳賀幸四郎・中村英勝、16～19 高校教師の試案、菱刈隆永・清水勝太郎・明石総一、19～23 とりあげた問題、24～26

シリーズ・近代史学をつくった人びと 白鳥史学（上）、石田幹之助、26～34
ヨーロッパで見たこと聞いたことー今日のキリスト教ー、村川堅太郎、34～37
青少年をとまどわせる紀元節論争 歴史教育者協議会編「紀元節」〔淡路書房新社〕・日本文化研究所編「神武天皇紀元論」〔立花書房〕、風間泰男、38～39
書評 家永三郎・丸木政臣共著「歴史教育と人間形成」〔明治図書〕、岡部広治、39～41
書評 H. A. R. Gibb; Mohammedanism, An Historical Survey Mentor Book, 1952、三木亘、41～42

教科書展示会、42 研究所便り、43～44 寄贈図書、43 購読者へおねがい、44 編集後記、（荒井記）、44 歴史教育研究所評議員名簿、45

第9号 1958年9月 特集 フランス現代史

巻頭言、高橋碩一、1
座談会 ドゴール政権とフランス現代史の問題、2～11
「学習指導要領改訂案」をみて、吉村徳蔵、12～18
シリーズ・近代史学をつくった人びと 白鳥史学（下）、石田幹之助、19～27
石の都マチュピチューペルーの遺跡を訪ねてー、三笠宮崇仁、28～30
アメリカ旅行雑感ー帰朝歓迎座談会よりー、池島信平、30～34
ギリシヤ思想の社会的背景ートムソン著、出隆・池田薫訳「最初の哲学者たち」ー、久保正彰、34～37
書評 東洋思想講座第二巻「世界史における東洋」〔至文堂〕、久坂三郎、37～39
書評 堀米庸三著「西洋中世世界の崩壊」〔岩波全書〕、尾鍋輝彦、39～41
書評 秀村欣二著「西洋史概説」〔東京大学出版会〕、明石総一、41～42

読者便り、43 寄贈図書、43 研究所便り、44 編集後記、（荒井）、44 歴史教育研究所評議員名簿、45

第10号 1958年12月 特集 イスラム史の諸問題

巻頭言、三笠宮崇仁、1
座談会 世界史におけるイスラム史の諸問題、2～16
イスラム史の参考書について、中岡三益、16～17
座談会 改訂学習指導要領と歴史教育、18～27
シリーズ・近代史学をつくった人々 坪井九馬三・箕作元八（上）、大類伸・亀井高孝・佐藤堅司・山中謙二、27～36 坪井・箕作両先生についての思い出、内藤智秀、36～37
芦屋修学旅行記、菱刈隆永、38～40
書評 E・キエラ著、板倉勝正訳 粘土に書かれた歴史〔岩波新書〕、吉岡力、41～42
書評 小椋広勝・岡倉古志郎編 世界現代史事典〔合同出版社〕、村瀬興雄、42～43

研究所便り、43～44 寄贈図書、44 編集後記、(大江)、44 歴史教育研究所評議員名簿、45

第11号 1959年3月 特集 歴史教育における仏教の問題点

巻頭言、秀村欣二、1

座談会 歴史教育における仏教の問題点、2～18

歴史教室の窓 第一回 古代史、19～27

原始・古代学習における読書指導 日本史、水口敏之、27～30 世界史、明石総一、30～32
シリーズ・近代史学を作った人々 坪井九馬三・箕作元八(中)、大類伸・亀井高孝・佐藤堅司・山中謙二、32～41

書評 三笠宮崇仁編 日本のあけぼの―建国と紀元をめぐって―〔光文社カツパブツクス〕、内容紹介と高校での利用、菱刈隆永、41～43

研究所便り、43 寄贈図書、44～45 読者の声、45～46 編集後記、荒井信一・大江一道、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第12号 1959年7月 特集 歴史教育におけるキリスト教の問題点

巻頭言、岸辺成雄、1

座談会 歴史教育におけるキリスト教の問題点、2～14

歴史教室の窓 第二回 中世史、15～27

中世史学習における読書指導 日本史、清水勝太郎、27～29 世界史、明石総一、30
シリーズ・近代史学を作った人々 坪井九馬三・箕作元八(下)、大類伸・亀井高孝・佐藤堅司・山中謙二、31～36

書評 熊田亨著 砂漠に渴いたもの 中東一九四四―五八〔東洋経済新報社〕、中岡三益、36～37

書評 中村英勝著 イギリス議会史〔有斐閣〕、今井宏、37～38

継飛脚 その一 往復書簡 教育大の世界史問題をめぐって、明石総一・穂積重行、39～41
その二 高校世界史創設十年を記念して、岡山世界史同好会、41～42 その三 雑伸、酒井忠雄(大阪学芸大)・久保田勉(都立目黒高校)、42～43

寄贈図書、43 研究所便り、44 教科書展示会の御知らせ、44 編集後記、明石総一・岡部広治、44～45 歴史教育研究所評議員名簿、47

第13号 1959年10月 特集 テレビと「歴史教育」

巻頭言、家永三郎、1

歴史教室の窓 第三回 近代史、2～13

近代史学習における読書指導 日本史、菱刈隆永、13～14 世界史、明石総一、15～16

シリーズ・近代史学を作った人々 三上参次、中村孝也、16～28

テレビと「歴史教育」―美術館・映画・話・そしてテレビ―、吉田悟郎、28～37

書評・紹介

ツエーラム 狭い谷、黒い山〔みすず書房〕、吉岡力、37～39 北島正元著 江戸時代〔岩

波新書]、筑紫申真(三重県立鳥羽高等学校教諭)、39～40 L. S. Stavrianos; The Teaching of World History、明石総一、41～43

継飛脚、43～44 寄贈図書、45 研究所便り、46 編集後記、(岡部記)、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第14号 1960年1月 特集 現代史の諸問題

巻頭言、中屋健弑、1

歴史教室の窓 現代史の研究、2～14・48

読書指導 日本史、水口敏之(都立八潮高校教諭)、15～16 世界史、明石総一、16～18

「歴史教育の場」開設の弁、菱刈隆永記、18～19

座談会 パニツカル著「インドの歴史」をめぐって[東洋経済新報社]、20～27

続・テレビと歴史教育、28～35

日本史教育研究会第一回全国大会報告、岩浅農也(東京大学教育学部附属高等学校教諭)、35～42

三島一氏帰朝報告会―国慶節に参加して感じたこと―、43～45

書評 藤原正教著 歴史教育の理論と実践[東洋館出版社]、菱刈隆永、46～48

継飛脚、48～49 研究所便り、49～50 編集後記、(明石記)、50 [委託図書紹介]、51 寄贈図書、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第15号 1960年4月 特集 歴史教育における朝鮮史の問題・高校教育課程はいかにあるべきか

巻頭言、風間泰男、1

歴史教室の窓 歴史教育における朝鮮史の問題点、2～16

歴史教育の場 第一回 高校教育課程(社会科)はいかにあるべきか、17～27

シリーズ・近代史学を作った人々 ルードウィヒ・リース[(上)]、瀬川秀雄・野々村戒三・長寿吉・阿部秀夫、28～36

アメリカ便り、中村英勝、37～39

歴史教育と映画、加畑一夫(仙台第一高等学校教諭)、40～42

高校生の書評 中島健蔵著「昭和時代」[岩波新書]、江橋崇(東京教育大学付属駒場高校二年)、43～46

書評 山本進「中南米」[岩波新書]、岡部広治、46～47

要望書[日本歴史学協会歴史教育特別委員会]、27 継飛脚、39～40 寄贈図書、42 研究所便り、48 編集後記、(明石記)、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第16号 1960年7月 特集 高校新指導要領を検討する・アフリカ独立に学ぶ

巻頭言、旗田巍、1

歴史教育の場 第二回 高等学校学習指導要領改訂草案を検討する、2～21

シリーズ・近代史学を作った人々 ルードウィヒ・リース(下)、瀬川秀雄・野々村戒三・長

寿吉・阿部秀夫、22～29

歴史教育の窓 アフリカの独立に学ぶ、31～46

書評 「現代史の方法」上〔井上清他編、三一書房〕、明石総一、46

大学入試と歴史教育、47～53

教科書展示会の御知らせ、21 寄贈図書、30 継飛脚、54～55 研究所便り、55 編集後記、
(菱刈記)、56 歴史教育研究所評議員名簿、57

第17号 1960年10月 特集 歴史教育と現実—安保闘争から学ぶもの—

巻頭言、江口朴郎、1

歴史教育の場 第三回 歴史教育と現実—安保闘争をめぐる—、2～17

シリーズ 近代史学を作った人々 村上直二郎先生を囲んで、18～

歴史教室の窓 第七回 ラテン・アメリカを探る、25～39

書評 「読む」世界史について、明石総一、40 H・フエイガン著「労働者のチャンピオン」

自由を求めたイギリスの人々・その2(岩波新書)、大竹弘(〔東京教育大学附属高校〕一年)、

40～41 岡義武著「ドイツデモクラシーの悲劇」(アテネ文庫)、土井勝二(〔同校〕一年)、

41～43

高校生の読んだ日本文化史 菱刈隆永、44 浦部道子(〔東京都立駒場高校〕三年)、44～45

広渡玲子(〔同校〕三年)、45～48 書評を読んで、家永三郎、48～49 小林加代子(三年一

組)、49～51

研究所だより、17 寄贈図書、22～23 〔日本史教育研究会第二回全国大会の案内〕、48 東京行進曲のカットされた部分、50 継飛脚、46～48 編集後記、(岡部記)、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第18号 1961年1月 特集 東南アジア史の問題点

巻頭言、井上光貞、1

歴史教室の窓 (8) 東南アジアを中心に—研究方向と歴史教育問題の所論—、2～17

シリーズ・近代史学を作った人々 黒板勝美博士、坂本太郎・末松保和・黒板昌夫・藤木邦彦、18～31

日本史教育研究会第二回全国大会〔三重県〕、清水勝太郎、32～37 感想と提案、三木亘、37～39

帰朝報告 国際宗教学会に出席して、三笠宮崇仁、40～42 (2)欧米の印象、中村英勝、42～45 (3)東西対立下のヨーロッパ、中屋健一、45～47

紹介 「具体例による歴史研究法」〔吉川弘文館〕の紹介によせて、水口敏之、48～50

編集後記、(明石記)、50 研究所便り、51 寄贈図書、51

第19号 1961年4月 特集 歴史教科書とその時代—戦後教科書物語—

巻頭言、伊瀬仙太郎、1

歴史教科書とその時代 1

座談会 戦後教科書物語—検定制度発足まで—、2～22 戦前教科書雑感、亀井高孝、22～27
文化史講座 歴史教育と音楽—日本・東洋—、講師・岸辺成雄、28～38
研究の焦点 発掘と新発見—アンデス、コトシ遺跡の場合—、曾野寿彦（東大文化人類学助教授）、39～41
伊勢神宮と修学旅行、筑紫申真（三重県立志摩高校）、42～46
書評 村川堅太郎・秀村欣二「世界の歴史 2」（中央公論社）—ギリシアとローマー、久保正彰（東大大学院西洋古典学助手）、46～48 京都大学文学部編「東洋史辞典」〔東京創元社〕、加畑一夫（仙台第一高校）、49～50
寄贈図書、50 継飛脚、酒井忠雄（大阪学芸大）、51 研究所便り、51 編集後記、（菱刈記）、52 お願い!!、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第20号 1961年7月 特集 歴史教科書とその時代2—第二次指導要領まで改定—

巻頭言、吉岡力、1
歴史教科書とその時代2 座談会 戦後教科書物語—第二次指導要領改定まで—、2～21
文化史講座 音楽史への一考察、井上和男（音楽評論家・都立王子工業高校教諭）、22～25
中国とロシアとの関係—世界史教科書の取扱いにおける問題点—、吉田金一（埼玉県立浦和第一女子高校）、26～35
中学校高等学校の歴史教育をいかに関連させるか、〔35〕
中学校での世界史の扱い方、岩浅農也（東京大学附属中学校・高校）、36～38 世界史の関連について、明石総一（東京教育大学附属高校）、39～42 高校における日本史学習—二人の教師の対話—、菱刈隆永（都立駒場高校）、43～45
書評 北山茂夫著「大化の改新」（岩波新書）、清水勝太郎、46～48
寄贈図書、21 研究所便り、49 編集後記、（大江記）、49～50 お知らせ!、50 歴史教育研究所評議員名簿、53

第21号 1961年10月 特集 歴史教科書とその時代3—戦前戦中教師の体験—

巻頭言、金沢誠、1
座談会 歴史教育とその時代3—戦前戦中の教師の体験—、2～18
社会科教育及び教科書に関する年表、19～20
高等学校大学歴史教育をいかに関連させるか、21～34
歴史教育へのおもいつき、吉村徳蔵（板橋区立上板橋一中）、35～37
書評 エンダバニンギ・シトレ著、寺本光朗訳、アフリカの心（岩波新書）、久坂三郎（都立本所高校）、38～39 キューバについての本 ある対話、岡部広治（私立和光学園）、39～42 A・J・トインビー著、秀村欣二・清水昭次訳、ヘレニズム—一つの文明の歴史—〔紀伊国屋書店〕、久保正彰（東大大学院西洋古典学助手）、43～45

原稿募集!、34 〔日本史教育研究会の案内〕、37 寄贈図書、37 研究所便り、46 編集後記、（岡部記）、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第22号 1962年1月 特集 歴史教科書とその時代4—中国史の時代区分—

巻頭言、小沢栄一、1

歴史教科書とその時代 4 座談会 検定制度と今後の教科書（一）—今日の教科書問題の一端—、2～12

中国史の時代区分について、13～28

「フランス美術展」さ・え・ら、明石総一、28～32

日本史教育研究会第三回大会に出席して、福田以久生（沼津市立高校）、33～38

学習参考書合評会、39～44

研究所便り、32 寄贈図書、44 継飛脚 入試の恐怖、村上良三（松山北高校）、45～46 編集後記、（菱刈記）、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第23号 1962年4月 特集 歴史教科書とその時代（最終回）・人類と文明の起原の問題

巻頭言、龍野四郎、1

歴史教科書とその時代（最終回）座談会 検定制度と今後の教科書—検定制度をめぐって—、2～18

歴史教室の窓 歴史のあけぼの（一）—人類と文明の起原の問題—、19～35

書評と紹介 H・フランクフォート著、三笠宮崇仁監修「古代オリエン特文明の誕生」〔岩波書店〕、吉岡力、36～39 歴史教育者協議会編「教師のための歴史」〔河出書房新社〕、岩浅農也（東京大学附属高校）、39～43 筑紫申真著「アマテラスの誕生」〔角川新書〕、菱刈隆永（都立駒場高校）、43～45

読者の便り、18 寄贈図書、35 〔購入定期刊行物紹介〕、45 研究所便り、46 編集後記、（久坂記）、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第24号 1962年7月 特集 新中国の歴史教育の現状・黄河文明はどのように発展したか・歴史教育におけるキリスト教の問題点

巻頭言 一つの提案 外国の歴史教育を研究せよ、尾鍋輝彦、1

歴史教室の窓

対談 新中国の歴史教育の現状—高橋磯一氏にきく—、きき手・大江一道（編集部）、2～14 宗教改革をどのように教えるか—続・歴史教育におけるキリスト教の問題点—、15～35

ヨーロッパひとりある記（その1） フランス・スペインの旅、前島信次（慶応大学）、36～39

歴史のあけぼの シリーズ（二） 黄河文明はどのように発展したか—関野雄氏を囲んで—、40～53

書評的感想 ホームスクール版「世界の歴史」①『古代文明の発見』中央公論社、時宣をえた世界通史 まだ究明の余地はあるが—中学生にすすめたい本—、吉村徳蔵（板橋区立上板橋一中）、54～56

歴史的映画評 「ニュールンベルグ裁判」と「ワルソー・ゲットー」、現代の恐怖訴う。…「ゲ

ツトー」 「裁判」…政治と良心がテーマ、斎藤孝（東京大学講師）、57～59

批判と反批判 自分の意見を言わない生徒を生まないか—自己展開学習への疑問—、杉山勝（愛知県立田口高校）、60～61

歴史問答その1、14 歴史問答その2、34 寄贈図書、53 歴史教育研究所利用規定、56 歴史問答その3、59 読者の声、61～62 編集後記、(工藤)、62 歴史教育研究所『定款』、63

第25号 1962年10月 特集 英国の歴史教育の現状・産業革命をめぐる諸問題

巻頭言 天皇制の再評価を、笠原一男（東大教授・研究所常任評議員）、1

歴史教室の場 堅固な個性尊重主義 英国の歴史教育の現状、佳知晃子（津田塾大）、2～7
生徒の立場からのアメリカの歴史教育、掛下紀子（都立駒場高校3年）、8～9

歴史教室の窓 産業革命をめぐる諸問題 附・学界の成果をどう現場に生ずか、10～27
ヨーロッパひとりある記（その2） フランス・スペインの旅、前島信次（慶応大学教授・研究所常任評議員）、28～31

宗教改革をどのように教えるか（前号のつづき）、32～41

ルポルタージュ 全国歴史教育研究協議会第三回大会に参加して、清水勝太郎（日本史）・石川澄雄（世界史） 日本史分科会 お祭りとしては成功 運営にはもうひと工夫の要がある、42～44 世界史分科会 昨年よりは一歩前進 生徒の関心をいかに高めるかに焦点、44～46

自著紹介 動機は「自己をなろう」ため 遺跡の踏査に一苦勞、〔竹内道雄著、人物叢書シリーズ「道元」吉川弘文館〕、竹内道雄（都立文京高校教諭）、47～49

書評 ロシアの実態さぐる 全体に固有名詞が多過ぎる、〔阿部重雄著、歴史の人間像シリーズ、『ピョートル大帝』誠文堂新光社〕、加畑一夫（仙台一高）、49～50

批判と反批判 史料批判によつて考える力を創り出す 自己展開学習 杉山氏の疑問に答えて、中村匡男（私立東京立正高校）、51～52

原稿募集!!、9 歴史問答 雅里山雷音寺珍問答録、31 寄贈図書、46 編集後記、(工藤)、52 歴史教育研究所『定款』、53

第26号 1963年1月 特集 フランスの歴史教育の現状・戦争・植民地・帝国主義・最近の朝鮮歴史学界の動向

巻頭言 百年前の奴隷解放、清水博（立教大学教授・研究所評議員）、1

歴史教室の場 国民氏と世界史が一本建て フランスの歴史教育の現状、小沢栄一（東京学芸大）、2～8

歴史教室の窓 座談会 戦争・植民地・帝国主義 経済面だけを考えればよいのか、9～23

ヨーロッパひとりある記（その3） フランス・スペインの旅、前嶋信次（慶応大学教授・研究所常任評議員）、24～27

特別寄稿 集団体制で研究進む 最近の朝鮮歴史学界の動向、裴秉斗（在日朝鮮人科学者協議会長）、28～33

私の卒業論文 (1) 四万温泉に一ヵ月こもる「出挙制の研究」、田名網宏（東京都立大学教授）、34～36

私の卒業論文 (2) “志あまつて力足らず”「奈良遷都以前の社会と仏教」、井上光貞（東京大学助教授）、36～38

自著紹介 道楽に黄檗宗の研究 夏休み 40 日間で草稿完了、〔平久保章著、人物叢書シリーズ「隠元」吉川弘文館〕、平久保章（都立戸山高校教諭）、39～40

歴史的映画評 多い、構成や史実のミス 鑑賞にはかなりの訂正が必要、〔大映作品「秦・始皇帝」〕、久坂三郎（都立本所高校教諭・評議員）、41～42

批判と反批判 中村氏の反批判に答えて 生徒の思考経験の場が狭い 再び自己展開学習への疑問、杉山勝（愛知県立田口高校）、43～44

研究会報告その一 ソビエト科学アカデミー版「世界史」研究会の発足、世話人・明石総一・大江一道（研究所評議員）、45～46

世界史問答集その 1、23 歴史教育研究所利用規定、27 寄贈図書、33 歴史問答その 2、38 会員通信、44 〔本誌紹介記事の紹介〕、47 編集後記（工藤）、47 歴史教育研究所『定款』、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第 27 号 1963 年 4 月 特集 現代の帝国主義をどう捉えるか・座談会 新地理教科書をめぐって・音楽は立派な史料である

巻頭言 断層の克服、上原淳道（東京大学助教授・研究所評議員）、1

歴史教育の窓 現代の帝国主義をどうとらえるか 前号「戦争・植民地・帝国主義」を読んで、江口朴郎、2～6

歴史教室の場 座談会 歴史との交流点はどこか 新しい地理教科書をめぐって、7～14
ヨーロッパひとりある記（その 4）フランス・スペインの旅、前嶋信次（慶応大学教授・研究所常任評議員）、15～18

特別寄稿 音楽も立派な史料である その扱い方にまちがいはないか、井上和男（都立王子工業高校教諭）、19～21

私の卒業論文 (3) 忘れられぬ先輩のいましめ「コンソルテースとコリベルテイー」、椋川一郎（東京都立大学助教授）、22～24

中心は古・中王国時代 エジプト美術五千年展をみて、屋形禎亮（東京大学大学院）、25～27
自著紹介 中味の無思想が問題 「現代つ子」の背景えぐる、〔「現代中学生気質」三一新書〕、吉村徳蔵（板橋区立上板橋一中教諭）、28～29

書評的感想 傾聴に値する諸見解 まとまりのないのが惜しい、〔三田村泰助著「宦官」中公新書〕、石橋秀雄（日本女子大助教授）、30～31

教育投資の少なさ謳う 「将来の展望」(第五章) には落胆、〔文部省「日本の成長と教育」〕、(T・Y)、32～33

歴史的映画評 惹きつける砂漠の威容 複雑な部族対立の描写に不満、〔コロンビア映画配給、デビッド・リー監督、「アラビアのロレンス」〕、中岡三益（アジア経済研究所員）、34～35
批判と反批判その一 事実を探究できる批判力を 「歴史教育の理論と実践」(藤原正教著)への疑問、杉山勝（愛知県立田口高校）、37～39

批判と反批判その二 まず歴史叙述の経験が必要 年表学習では思いつきで終わる 杉山・中村両氏の自己展開学習論争によせて、羽生敦（東京都立立川高校）、40～41

ソビエト科学アカデミー版「世界史」研究会報告（その二）、世話人・明石総一（研究所評議

員)・大江一道(研究所評議員)、45

会員通信、秀村欣二、14 歴史教育研究所利用規定、18 寄贈図書、21 世界史問答集(その1)、24 歴史教育研究所『定款』、27 世界史問答集(その2)、29 購読料値上げのお知らせ、31 世界史問答集(その3)、33 T・I氏、35・39 教科書展示会・研究会開催ご案内、36 読者アンケート、42～44 編集後記、(工藤)、46 歴史教育研究所評議員名簿、47

第28号 1963年7月

巻頭言 教材の再検討を、和歌森太郎(東京教育大学教授・評議員)、1

歴史教育の場 座談会 授業形態はどうあるべきか 主として世界史の学習を中心として、2～14

ルポルタージュ 歴史学研究会大会総合部会に参加して 「東アジア歴史像の検討」、久坂三郎(都立本所高校)、15～19

歴史教室の窓 どんな内容のものがよいか 世界史新教科書を検討する 叙述内容を探る、大江一道、20～23 大胆な工夫がない、明石総一、23～25

ヨーロッパひとりある記(その5) フランス・スペインの旅、前嶋信次(慶応大学教授・評議員)、27～30

私の卒業論文(その4) 今井先生の講義からヒント 「ヘンリー7世の専制君主政治」、大野真弓(横浜市立大学教授)、31～33

自著紹介 伝説と史観の修正めざす 欧米の水準に追いつくのが主眼、[「ヒトラー・ナチズムの誕生」誠文堂新光社]、村瀬興雄(成蹊大学教授)、34～36

書評的感想 戦後の日本の教育を批判 社会学者との交遊を期待、[岡潔著「春宵十話」毎日新聞社]、吉村徳蔵(区立上板橋一中)、37～38

書評的感想 なまなましい受験描写 一般にもわかりよく解説、[宮崎市定著「科举」中公新書]、板沢純男(都立西高校教諭)、39～40

視覚資料の限界を痛感 『資料世界史』(学習研究社版・スライド)の編集を終わって、吉田悟郎(都立広尾高校)、41～42

研究所の利用、14 研究所町名変更のお知らせ、19 研究所社会科教科書展示会 出陳教科書並びにスライド、26 振替口座新設のお知らせ、33 歴史教育研究所利用規定、36 歴史教育研究所『定款』、40 読者アンケート、43～45 質問と回答、46～49 寄贈図書、49 編集後記、50 歴史教育研究所評議員名簿、51

第29号 1963年10月

巻頭言 歴史の教訓、中村英勝(お茶の水女子大学教授・評議員)、1

特別寄稿 学校と実生活の結合を強化 ソ連の歴史教育の現状、米川哲夫(東京大学)、2～5 歴史教室の窓 座談会 従来の史観に誤りはないか 「東洋史と西洋史とのあいだ」(飯塚浩二著)をめぐって、6～19

地方研究会レポート 大阪の歴史教育研究会大会 主題は「封建社会の教え方」、西田光男(大阪学芸大附属天王寺中)、20～22

歴史教育の場 座談会 倫社との授業提携をどうする その性格と内容「歴史」との交流点

をさぐる、23～37

ヨーロッパひとりある記（その 6）フランス・スペインの旅、前嶋信次（慶応大学教授）、38～41

私の卒業論文（5）べ切までにできたのは半分 「マキャヴェッリ研究」、三木亘（都立大附属高校教諭）、42～44

自著紹介 「調査」を「研究」に高めたい 過早の執筆に後悔の念深める、〔人物叢書シリーズ「慈円」吉川弘文館〕、多賀宗隼（都立多摩高校教諭）、45～46

書評的感想 エジプト人理解の鍵提供 ヒエログリフの解説が中心、〔加藤一朗著「象形文字入門」中公新書〕、吉岡力（東大教授・所長）、47～48

十周年記念出版のお知らせ、5 寄贈図書、22 歴史教育研究所利用規定、41 読者アンケート、49～51 編集後記、（工藤）、51 質問と回答、〔2 問〕、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第 30・31 号 1964 年 2 月 創立十周年記念号 特集 歴史学と歴史教育のあいだ

巻頭言 「十年一昔」、吉岡力（東大教授・歴史教育研究所所長）、1

特集・歴史学と歴史教育の間

特集・その 1 正視せよ統制強化の事実 ―歴史教育者にのぞむ―、家永三郎（東京教育大学教授）、2～7

特集・その 2 座談会 歴史教育の現状と問題点 ―小学校から大学までの一貫性をどう考える―、8～39

追記Ⅰ、（明石）、40 追記Ⅱ 人間らしさを学べ、島崎晃、40～41 追記Ⅲ 何が混迷を生むか、小貫隼男、41～42

特集・その 3 教育者は歴史学者の何をのぞむか

時代を超越せよ、秋山明（都立杉並高校）、43 個々の研究の総合を、田中晃（岐阜県立斐太実業高校）、44 世界史像を明確に、古林森広（兵庫県立長田高校）、44 入試問題に理解を、宮原兎一（東京教育大学）、45 日本人の立場に立て、藤田欽也（京都府立峰山高校）、45～46 具体的な資料を、杉山勝（愛知県立福江高校）、46～47 現場の実際に触れよ、柿沼定雄（熊谷市立大原中学）、47 東アジア史の解明を、伊藤豊松（福島県立喜多方女子高校）、47～48

特集・その 4 アンケート 私の最も感銘を受けた本、〔30 名〕、49～56

歴史教育研究所 十年のあゆみ（上）、〔清水勝太郎〕、57～66

創立当時の歴史教育研究所

思い出す新鮮な意気込み、野田美登里（元助手）、67～68 開拓者精神に充つ、庄野蕙子（元助手）、68～70

生徒の立場から見たフランスの歴史教育 全体の流れの理解に努む、下田節夫（東京教育大附属駒場高校 3 年）、71～73

地方研究会レポート（その一） 富山県歴史研究会展望 活発なグループ活動、馬場寛三（富山県学校図書館協議会長・富山県立戸田女子高校長）、74～76

地方研究会レポート（その二） 埼玉県浦和“世界史の会” ソビエト科学アカデミー版世界史「近代Ⅰ」を合評、九里幾久雄（浦和第一女子高校）、77～79

特別寄稿 ギリシヤ悲劇はいかにして上演されたか、本間武俊（東大ギリシア悲劇研究会）、80～86

私の卒業論文(6) こんな苦労は二度とご免 「十四世紀における仏蘭西王の貨幣変動政策」、金沢誠（学習院大学）、87～90

私の卒業論文(7) 日本人は馬鹿ではない 「幕末貨幣問題に関する若干の史料 ―ブリュー・ブツクを中心として―」、高橋磯一（歴史教育者協議会）、91～93

ヨーロツパひとりある記(その8) フランス・スペインの旅、前嶋信次（慶大教授）、94～97

自著紹介 古代盛時に読者を案内 夏休みの四〇日で仕上げ、「[オリンピア]中公新書」、村川堅太郎（東大教授）、98～99

自著紹介 至難な全人間像の描写 わが貧しきトルソオにすぎない、「[プーシキン ―詩人と革命家の間―]誠文堂新光社」、岩間徹（東京女子大学教授）、100～101

自著紹介 「利休」の居士号に新解釈 偽物の史料になやまされる、「[人物叢書シリーズ「千利休」吉川弘文館]、芳賀幸四郎（東京教育大教授）、102～103

書評的感想 渴き癒す清冽の小著 古代史の現代的意義さぐる、「[大田秀通著「地中海文明印象記」岩波書店]、吉田悟郎（都立広尾高校）、104～106

書評的感想 背景に米ソ和解の気運 執筆者は東西のよき理解者、「[アンドレ・モロワ、ルイ・アラゴン著「東と西」第二巻「恐慌と内戦」読売新聞社]、斉藤孝（東京大学助教授）、107～108

歴史教育研究所利用規定、48 「歴史教育研究」購読方法、56 会場利用の受け、66 歴史教育研究所創立10周年記念出版予告、66 歴史教育研究所『定款』、70 読者拡張について 会員諸兄姉にお願い、73 [次号32号の発行時期]、93 寄贈図書、106 お知らせ、110 読者アンケート、110 質問と回答、111～113 「歴史教育研究」バック・ナンバー総目次 1号～29号、114～121 編集後記、(工藤)、122 歴史教育研究所設立趣意書、123 歴史教育研究所評議員名簿、124

第32号 1964年7月 特集 大学入試のあり方

巻頭言 歴史学の責務、木村尚三郎（東京都立大学助教授）、1

特集・大学入試のあり方

特集・その1 理想と現実の板挟み つきぬ問題作成上のなやみ、小林茂（下関市立大学助教授）、2～3

特集・その2 座談会 大学入試問題と高校歴史教育、4～27

歴史教育研究所 十年のあゆみ(下)、清水勝太郎（都立駒場高校・常任評議員）、28～36

歴史教育の場 世界史分割学習の問題点

その1 五合の袋に一升は入らぬ、清水勝太郎（都立駒場高校）、37～38

その2 3(高2)・1(高3)と分割してみても、明石総一（教育大附属駒場高校）、38～39

その3 一つの試み・倫社との提携、菱刈隆永（都立駒場高校）、40

私の卒業論文(8) ヴォルティユの発音で冷汗 「フリードリツヒ大王とマキアヴェリズム」、加畑一夫（宮城県立仙台第一高等学校）、41～43

自著紹介 独立以降の大すじ描く カストロの影響力に焦点、「[ラテン・アメリカ史]中公新書」、中屋健一（東大教授）、44～45

自著紹介 歴史教育研究の足場固む 短かすぎた？九年の歲月、〔上原専祿・江口朴郎編小辞典「世界史—西洋」岩波書店〕、吉田悟郎（都立広尾高校教諭）、46～47
書評的感想 考える素材を提供 だが世界史の題名にそぐわぬ、「〔教養人の世界史〕上・中・下、現代教養文庫〕、榎木修（都立駒場高校）、48～49
書評的感想 「裏街道」的叙述の試み 老年の回顧録に情する危険も・・・、〔大宅壮一著「炎は流れる」Ⅰ、文芸春秋新社〕、石川澄雄（都立西高校教諭）、50～51

研究所利用団体レポ〔地理教育研究会〕、（星野朗）、27 研究所利用団体レポ〔ロシア史研究会〕、（菊地昌典）、36 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版予告、49 読者アンケート、52～54 質問と回答、55～56 編集後記、（工藤）、56 歴史教育研究所評議員名簿、57

第 33 号 1964 年 10 月 特集 3つの実践記録

巻頭言 新時代のヘレニズム—オリンピックに際して—、村川堅太郎（東大）、1

特集・3つの実践記録

その 1 中学校の歴史学習における評価の問題点、吉村徳蔵（区立上板橋一中）、2～8 その 2 主題学習「ワイマール体制とその崩壊」に関する一考察、大江一道（都立上野高校）、9～15 その 3 日本史と世界史の「総合歴史」の試み、東京大学附属高校・石田正明・大野功・岩浅農也（文責 岩浅）、16～21

アンケート 歴史科として外人に見せたいもの、〔16 名〕、22～25

特別寄稿 欧米図書館の現状 東アジア関係文書の整理状況を視察して、神田信夫（明治大学）、26～31

この夏の思い出 野尻湖畔のクリルタイ、前島信次（慶応大学）、32～35

私の卒業論文（9） 統制経済への反駁をこめて 「江戸時代酒造業に見たる統制と承認の動向」、水口敏之（都立八汐高校）、36～39

自著紹介 三十数年温めたテーマ この一冊に奇しき因縁負う、〔『美濃部達吉の思想史的研究』岩波書店〕、家永三郎（東京教育大学）、40～41

書評的感想① 偽わらぬ人間の姿躍動 日本の歴史叙述は現状でよいか、〔ダフ・クーパー著、曾村保信訳『タレイラン評伝』中央公論社〕、石川澄雄（都立西高校）、42～45

書評的感想② 現代史の第一級の書物 「教育理論のおくれ」に深い反省、〔勝田守一・中内敏夫共著『日本の学校』岩波新書〕、三木亘（都立大附属高校）、46～48

歴史教育研究所『定款』、8 歴史教育研究所利用規定、15 寄贈図書、35 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版予告、39 お知らせ、48 読者アンケート、49～50 質問と回答、51～52 編集後記、（工藤）、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第 34 号 1965 年 1 月

巻頭言 卒業論文雑感、田名網宏（東京都立大学）、1

特別寄稿 「歴史と教育の間」論考 その分離はいつから始まったのか、酒井忠雄（大阪学芸大学）、2～6

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第 1 回 座談会 市民革命の問題点を探る、7～24

歴史教育の場 高校世界史における主題学習をどうすすめるか 序論、明石総一（東京教育

大附属駒場高校)、25~27

私の卒業論文 (10) 疾風のごとく認印を頂戴 「室町時代における酒屋土倉の研究—その社会との関係—」、風間泰男 (都立日比谷高校)、28~30

私の卒業論文 (11) ストライキの嵐の中で 「中世荘園の構造—播磨国矢野荘—」、福田以久生 (私立幾徳高専)、31~34

歴史時評 「独立国」日本、(Y)、35

自著紹介 砂糖に苦い菓をまぜた 研究としてはまだ出発点、[「クーデター その成功と失敗の分析」中公新書]、尾鍋輝彦 (お茶の水女子大)、36~37

書評的感想 その1 明治の思想を適切に説明 キリスト教の究明が今後の課題、[鹿野政直著『明治の思想』筑摩書房、グリーンベルトシリーズ]、鶴岡静夫 (都立小松川高校)、38~39

書評的感想 その2 読み易く面白い啓蒙書 日本への影響に疑問が残る、[窪徳忠著『道教百話 (仙人へのあこがれ)』筑摩書房、グリーンベルトシリーズ]、岩浅農也 (東大附属高校)、40~41

寄贈図書、24 歴史教育研究所『定款』、27 「歴史教育研究」購買方法、34 歴史教育研究所利用規定、37 読者からの手紙、42~43 質問と回答、44~45 「歴史教育研究」バック・ナンバー総目次 30号~33号、47~48 歴史教育研究所創立10周年記念出版予告、45 編集後記、(工藤)、46 お知らせ、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第35号 1965年4月

巻頭言 ベトナムに思う、別枝達夫 (成蹊大学)、1

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第2回 座談会 古代の土地制度と国家構造、2~17

歴史教育の場

高校世界史における主題学習をどうすすめるか・第1部 現代の高校生の問題意識、明石総一 (東京教育大学附属駒場高校)、18~22

高校世界史における主題学習をどうすすめるか・第2部 ナショナリズムの発展 (教師の主題一例)、板垣雄三 (東洋文化研究所)、23~25

特別寄稿 「ペルサイ」(アイスキュロス作)上演に際して、細井雄介 (東京大学ギリシア悲劇研究会)、26~29

実践記録 歴史と倫社との提携、菱刈隆永 (都立駒場高校)、30~32

私の卒業論文 (12) 動機は史料代安あがり 「高麗時代の土地公有制度」、旗田巍 (東京都立大)、33~35

歴史時評 拒絶の姿勢を、(Y)、36

自著紹介 その1 悩みは神話の扱い方 よき協力者を得て幸福、[日本の歴史1—神話から歴史へ—、中央公論社]、井上光貞 (東京大学)、37~39

自著紹介 その2 現実把握の方法を探求 可能な科学としての歴史教育、[史学概論—人間の科学としての歴史学—、学生社]、太田秀通 (東京都立大学)、39~41

書評的感想 統一主題で六篇の論文 欲しかつた『近代革命』の説明、[『近代革命の再検討』日本政治学会編、岩波書店]、松村赳 (成城大学)、41~43

歴史教育研究所・定款、17 歴史教育研究所利用規定、32 お知らせ、35 「歴史教育研究」購読方法 43 寄贈図書、44 読者からの手紙、44 質問と回答、45～47 編集後記、(工藤)、47 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版予告、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第 36 号 1965 年 7 月

巻頭言 比較史的方法を、(豊田武・東北大)、1

歴史教育の窓 再検討シリーズ・第 3 回 座談会 封建国家と領主制、2～31

問題提起 日本の場合、永原慶二、3～7 ヨーロッパの場合、木村尚三郎、8～12 討論、12～27 結語、27～31

歴史教育の場 高校世界史における主題学習をどう進めるか・第 2 回 学習の進め方と若干の問題点、明石総一(東京教育大学附属駒場高校)、32～35

各種実験的試みの要 明石氏の授業を参観して、宮沢嘉夫(都立白鷗高校)、36～37

読者アンケート 『日本の歴史』(中央公論社)はなぜ読まれたか、[18 名]、38～41

歴史時評 「面白い」でよい—歴史ブーム批判—、(乙)、42

私の卒業論文(13) 敗戦後の苦しい生活の中で 「ウイーン会議におけるシュタイン」、石川澄雄(都立西高)、43～46

自著紹介 その 1 真実を国民に伝えたい 泣き寝入りせず不法と闘う、[教科書検定—教育をゆがめる教育行政—、日本評論社]、家永三郎(東京教育大)、47～50

自著紹介 その 2 「理論は灰色、現実には緑」最後の五行に「踏み絵」的意味残す、[日本の歴史 3—奈良の都—、中央公論社]、青木和夫(山梨大)、51～53

書評的感想 その 1 質問の幅と深さ増す 現場と研究者の協力の成果、[『世界史の教室』(上)、歴史教育研究所編、吉川弘文館]、鈴木亮(都立広尾高校)、54～55

書評的感想 その 2 またれる続篇の刊行 いま一歩生徒むきの配慮も、[日本史の教室、歴史教育研究所編、吉川弘文館]、中村匡男(都立南高校)、56～57

会員消息 よきパイプたらん 新設校の教頭となつて、清水勝太郎(都立久留米高校)、59～60

寄贈図書、35 お知らせ、46 「歴史教育研究」購読方法、46 歴史教育研究所利用規定、53 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版、58 読者からの手紙、61～62 編集後記、(工藤)、62 歴史教育者協議会第 17 回大会案内、63 第 6 回全国夏季歴史教育講座ご案内、64 歴史教育研究所評議員名簿、65

第 37 号 1965 年 10 月

巻頭言 戦時中の歴史授業、村瀬興雄(成蹊大学)、1

実践記録 中学校における政治学習の一試論、西田光男(大阪学芸大学附属天王寺中学校)、2～6

歴史教室の窓、再検討シリーズ・第 4 回 座談会 第一次世界大戦(その一)、7～31

ルポ・日本史教育研究会第 6 回全国大会(松江) 神々、出雲に集まる、菱刈隆永、32～34

歴史時評 若い世代の姿勢、(竹)、35

歴史教育の場 一つの提案 映画推せんルートの確立を、明石総一、36～37 圧巻の与党内の駆け引き アメリカ映画「野望の系列」をみて、松崎健(東京教育大附属高校 2 年)、38

私の卒業論文 (14) 同じ主題を追いつづけて 「律令制とその時代」、酒井忠雄 (大阪学芸大天王寺分校)、39～41

私の卒業論文 (15) 娘の姿を眼に浮べつつ 「飛騨における農村構造の実態」、井元保 (福井県武生工業高校)、42～44

自著紹介 その1 電話催促に励まされて 中世回教社会を医術面から描写、[「アラビアの医術」中公新書]、前嶋信次 (慶応大学)、45～47

自著紹介 その2 葬制の分類と比較と 日本文化の起源もさぐる、[「葬制の起源」角川新書]、大林太良 (東大)、48

書評的感想 その1 静岡全県の資料集む 頭下がる努力と熱意、[静岡県高校社会科教育研究協議会編「日本史学習のための静岡県郷土資料集」学習研究社]、菱刈隆永 (駒場高校)、49

書評的感想 その2 多様性と統一性と ラテン・アメリカ関係文献解題、岡部広治 (アジア経済研究所)、50～52

歴史教育研究所・定款、6 寄贈図書、31 歴史教育研究所利用規定、34 「歴史教育研究」購読方法、49 お知らせ、52 会員消息、53 読者からの手紙、54～55 編集後記、(工藤)、55 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版、56 歴史教育研究所評議員名簿、57

第38号 1966年1月

巻頭言 歴史教育の最低目標、上原淳道 (東大)、1

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第五回 座談会 第一次世界大戦 (その二)、2～25

歴史時評 歴史の偶然―「日韓問題」に寄せて―、(H)、26

歴史教育の場 一つの提案 人物の歴史を授業に活用せよ 『教養人の世界史』を使つての試み、斉藤実 (静岡県立伊東商高)、27～28

私の卒業論文 (16) 後輩に検索的知識を与えた 「日本帝国主義分析の再検討」、咲山福栄 (岩手県立盛岡工業高校)、29～31

私の卒業論文 (17) 心残る和田先生の言葉 「北宋における救貧制度」、岩浅農也 (東大附属高校)、32～34

教師のための文献解題 (1) 国制の研究が今後の課題 「イギリス革命史」、松村赳 (成城大学)、35～37

自著紹介 その1 十年来温めたテーマ 副題の内容で力不足を痛感、[「元寇―蒙古帝国の内部事情―」中公新書]、旗田巍 (都立大学)、38～39

自著紹介 その2 楽しかった共同作業 三年間の泊込みの討論を集積、[「歴史教育の資料と扱い方」大村書店]、加藤文三 (江東区立第二砂川中学)、40～41

書評的感想 その1 多くの実践例を紹介 欲しい本物の世界史体系の樹立、[「現代の高校教育―世界史の基本事項と計画―」明治図書]、水上敏雄 (神奈川県立川崎高校)、42～44

他誌に載った『日本史の教室』『世界史の教室』(上)の反響 手ごろな入門書、山口康助 (文部省)、[「時事通信 (内外教育版)」]、48～49 山口氏への反論、富永幸生 (東大)、49

お知らせ、25 歴史教育研究所・定款、25 寄贈図書、44 会員消息、45 読者からの手紙、46～47 編集後記、49 歴史教育研究所創立 10 周年記念出版、50 1965 年『歴史教育研究』

バック・ナンバー総目次 34号～37号、51～52 「歴史教育研究」購読方法、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第39号 1966年4月

巻頭言 共通語の整理、藤木邦彦（東大）、1

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第六回 二つの大戦の間、2～25

歴史教育の場 一つの提案・続 授業に密着した教授資料を 「世界史の本通りと裏通り論」から、斉藤実（神奈川県立多摩高）、26～28

映画「灰」（ワイダ作品）をめぐる国民的な議論 ポーランドからの便り、阪東宏（埼玉県立浦和第一女子高校）、29～32

教師のための文献解題（2） 意義の把握に微妙な違い 「ロシア革命史」、菊地昌典（国立国会図書館）、33～36

私の卒業論文（18） 三高出身の同級生とともに 「17世紀における露清関係」、吉田金一（埼玉県立所沢高校）、37～40

自著紹介 その1 根底に島国への疑問 キッドの人間像を傍証的に構成、「[キャプテン・キッド 権力と海賊の奇妙な関係]中公新書」、別枝達夫（成蹊大学）、41～43

自著紹介 その2 教科書ではなく学習書[ワークブック] 楽しみながら古文書の解説を、「[古文書入門（増補改訂版）]河出書房新社」、高橋磯一（歴史教育者協議会）、43～45

書評的感想 すぐれた実践の芽 体制側につぶされる危険も、「[豊田武監修、平田嘉三・藤原正教編著「歴史、その教育—指導の課題と成果」葵書房]、本多公栄（文京二中）、46～47

お知らせ、25 寄贈図書、28 「歴史教育研究」購読方法、32 歴史教育研究所創立10周年記念出版、36 全国歴史教育研究協議会第7回大会のお知らせ、45 会員消息、48 読者からの手紙、49～50 編集後記、（工藤）、50 歴史教育研究所評議員名簿、51

第40号 1966年7月 特集 現代史教育の問題点

巻頭言 事実誤認の防止、藤田重行（都立大）、1

歴史教育の場 特集・現代史教育の問題点・その① 戦後史の学習をどう進めるか 日本史の場合 全歴研第七回大会に備えて、森口英生（静岡県立清水西高校）、2～5

歴史教室の窓 特集・現代史教育の問題点・その② 再検討シリーズ・第七回 第二次世界大戦、6～37

ジョン＝リード著「世界をゆるがした十日間」の跡を訪ねて モスクワ・レニングラード紀行、吉田金一（埼玉県立所沢高等学校長）、38～40

教師のための文献解題③ 総合的研究書は見当らぬ 「第一次世界大戦史」、富永幸生（東京大学）、41～43

自著紹介 非武装中立論の展開 日々の報道から同時代史を描く、「[現代世界の史的考察—国際政治と日本—]東大出版会」、斉藤孝（東京大学）、44～46

全国歴史教育研究協議会（略称、全歴研）第7回大会開催要項、37 歴史教育研究所創立10周年記念出版、40 「歴史教育研究」購読方法、46 寄贈図書、46 会員消息、47～48 読者からの手紙、48 編集後記、（工藤）、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第41号 1966年10月

巻頭言 全体像の把握を、大野真弓（横浜市立大）、1

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第八回 戦後世界の起点—第二次世界大戦の性格と戦後の諸問題—、2～28

教師のための文献解題(4) 何を、どう書くかで困惑 「第二次世界大戦と戦後世界」、荒井信一（成蹊高校）、29～31

歴史教育の場 一つの提案 教科書に関する若干の要望 漢字のルビ・人名表記・人物史料などについて、斎藤実（神奈川県立多摩高校）、32～34

私の卒業論文(19) 日活の映画みたいに面白い 「寺田屋騒動の幕末上の意義」、清水勝太郎（都立久留米高校）、35～38

私の卒業論文(20) 百名以上のカードに集めた史料 「明代中期（天順・成化年代）の流民について」、藤田欽也（東舞鶴高校）、39～42

自著紹介 力点は「エルガの世界」 ヘシオドスの時代の位置づけを、〔「ギリシア世界の黎明」ユーラシア文化史選書、吉川弘文館〕、太田秀通（東京都立大学）、43～45

自著（翻訳）紹介 克明に解説した棋譜 著者の片貌を幾分でも伝えたい、〔「戦史」トゥーキューディデース、岩波文庫〕、久保正彰（成蹊大学）、46～47

書評的感想 高度な理論の展開 教育的配慮ものぞましい、〔井上幸治編「西洋史入門」有斐閣〕、秀村欣二（東京大学）、48～49

お知らせ、38 歴史教育研究所利用規定、38 歴史教育研究所・定款、42 「歴史教育研究」購読方法、45 寄贈図書、45 会員消息、50 読者からの手紙、51 編集後記、（工藤）、51 歴史教育研究所創立10周年記念出版、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第42号 1967年1月

巻頭言 イスラム史に席を、前嶋信次（慶応大）、1

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第9回 中国前近代の視点、2～24（大江一道）

歴史教育の場 座談会 高校歴史教科書の周辺、25～34

教師のための文献解題(5) 通史を求めることは困難 「中国・明清関係史」、石橋秀雄（日本女子大）、35～37

私の卒業論文(21) 農民的泥臭さと粘っこさの中で 「イギリス・ブルジョワ革命における貧民的要素—ジェラード・ウィンスタンレイの場合—」、水上敏雄（神奈川県立川崎高校）、38～41

自著紹介 外来思想受容の跡辿る 思想全体の分析は他日に期待、〔「中村敬宇」人物叢書、吉川弘文館〕、高橋昌郎（都立北園高）、42～44

書評的感想 近代日本の分水嶺描く 今一步大胆な追求が欲しかった、〔古屋哲夫「日露戦争」中公新書〕、吉村道男（外務省）、45～46

歴史教育研究所創立10周年記念出版、34 お知らせ、41 寄贈図書、44 会員消息、47 読者からの手紙、47～48 編集後記、（工藤）、49 1966年分『歴史教育研究』バック・ナンバー—総目次 38号～41号、49～50「歴史教育研究」購読方法、50 歴史教育研究所評議員名簿、

第43号 1967年4月

巻頭言 「西洋の没落」、荒井信一（成蹊学園）、1

歴史教育の場 実践記録 教科書に見る人物の取扱い方 中学歴史と高校日本史の関連めざして、西田光男（大阪学芸大学附属天王寺高）、2～10

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第十回 中国近代の視点、11～36

ヨーロッパ学校教育視察の旅を終えて 西ドイツの国際教科書研究所のこと、明石総一（東京教育大附属駒場高）、37～41

教師のための文献解題(6) 戦前と戦後の差に注意せよ 「ヴェトナム史」、真保潤一郎（高崎経済大）、42～44

私の卒業論文(22) 銭湯とおでん屋で英気を養つて 「唐の西域経営と安西四鎮の征税について」、伊瀬仙太郎（東京学芸大学）、46～48

自著紹介 歴教協の成果ふまえて 新味は世界史を独立させたこと、「[近・現代史をどう教えるか] 現代の授業7/社会科、明治図書」、本多公栄（東京文京区立二中）、49～50

書評的感想 主体性の欠如を克服 論証や結論に曖昧な点も、[菊地昌典「歴史としてのスターリン時代」盛田書店]、斉藤千枝子（東大大学院）、51～53

「歴史教育研究」購読方法、10 寄贈図書、10 歴史教育研究所利用規定、36 歴史教育研究所・定款、41 お知らせ、45 会員消息、53～54 編集後記、(工藤)、54 歴史教育研究所創立10周年記念出版、55

第44号 1967年7月

特別巻頭言 研究所の危機に当り、全会員に訴える 「より高く跳ぶために」—まず膝を屈し 力を集めよう—、吉岡力、2～5

会員の熱烈な支持に応じて 「アンケート」のまとめと報告、明石総一（常任評議員）、6～11

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第十一回 日本近代化への疑問、12～41[折り込みとして「問題提起レジュメ」(羽生敦)]

歴史教育の場 わが教生時代の思い出 学友伊瀬君の「卒論」を読んで 「史実」の一つ一つに人間の営みをくみとること、小林茂（下関市立大学）、42～43

私の卒業論文(23) 小火鉢に手をかざして浄書 「王朝時代の民衆生活」、馬場寛三（富山女子短期大学）、44～47

私の卒業論文(24) 真摯な一学究のおかげで 「明代中葉における海上密貿易」、片山誠二郎（都立小岩高校）、47～50

『世界史の教室』上下二巻を完成して 知的エネルギーを結集、大江一道（都立上野高校）、51～53

歴史教育研究所創立10周年記念出版、[表紙裏] お知らせ、11 告、41 寄贈図書、41 歴史教育研究所・定款、43 会員消息、54 編集後記、(工藤)、54 歴史教育研究所評議員名簿、55

第45号 1968年1月

巻頭言 現代っ子と教育、風間泰男（日比谷高校）、1

年頭の辞 奇蹟は実現されつつある 研究所再建事業の進展について、吉岡力（所長・東大）、2～4

小事典編集始末記 日本史 正確と迅速の両立に苦しむ、清水勝太郎（都立久留米高校）、5～6 世界史 誕生祝のビールが楽しみ、明石総一（教育大附属駒場高校）、7～8

歴史教育の場

実践記録 その一 アンケートにみる世界史授業指導上の問題点、田中恒吉（福島県立磐城女子高校）、9～17 実践記録 その二 授業中に叱るのはマイナスである、杉山勝（愛知県立福江高校）、18～20

歴史教室の窓 再検討シリーズ・第十一回補遺 前回座談会日本近代化への疑問の批判と反省、21～35

教師のための文献解題(7) 明治前期の研究にすぐれる 「日本教育制度史」、四方一彌（静岡県教育研究所）、36～39

私の卒業論文(25) ドイツ客観主義史学に反発して 「アメリカ合衆国によるフィリピンの獲得」、中屋健一（東京大学）、40～43

私の卒業論文(26) 二つの厳粛な事実が転機 「洋学の渡来とその発展」、妹尾啓司（広島県立福山誠之館高校）、43～46

自著紹介 教育ママの害毒の実例 史料不足で公平な評価に困難が、「[ネロー暴君誕生の条件]中公新書」、秀村欣二（東京大学）、47～49

書評的感想 土地制度研究に不可欠 中心は自然と人間労働の関係、[古島敏雄『土地に刻まれた歴史』岩波新書]、鹿野賀代子（都立久留米高校）、49～51

歴史教育研究所利用規定、8 寄贈図書、17・39 お知らせ、35 歴史教育研究所編 旺文社発行 世界史小事典 日本史小事典 4月出来！、46 歴史教育研究所創立 10周年記念出版、51 会員消息、52 読者からの手紙、53 編集後記、(工藤)、53 1967年分「歴史教育研究」バックナンバー総目次 42号～44号、54 歴史教育研究所評議員名簿、55

第46号 1968年6月

巻頭言 蒔いた種を枯らすまい、吉岡力（所長）、1

座談会 イギリス史の問題点—高校世界史教育におけるイギリス史の取扱い—、2～26

座談会 明治維新をどう扱うか、27～40

私の卒業論文(27) 修驗道史の研究、和歌森太郎（東京教育大学）、41～43

私の卒業論文(28) 中世末期におけるコミュニンの没落、木村尚三郎（東京大学）、44～46

文献解題(8) イギリス中世史、城戸毅（東京大学）、47～49

文献解題(9) 日本産業革命の研究について—繊維産業を中心として—、永瀬順弘（都立大大学院）、50～52

書評的感想 一人一冊方式は失敗 最高のでき「21・近代国家の出発」、[「日本の歴史」全26巻、中央公論社]、中村匡男（都立南高）、53～54

自著紹介 歴史と思想、[「マルクス—人と思想」清水書院]、小牧治（東京教育大学）、55～

お知らせ、43 座談会予告、46 「歴史教育研究」の購読方法、49 吉岡力所長御退官記念の会御案内、52 寄贈図書、54 研究所だより、57 歴史教育研究所利用規定、57 会員消息、58 編集後記、(明石記)、58 歴史教育研究所評議員名簿、59

第47号 1968年10月

巻頭論文 イギリス初期議会について—身分制議会と二院制の成立をめぐって—、藤田重行(都立大)、1~6

座談会 その一 アメリカ史における三つの視点、7~29

座談会 その二 世界の中の「明治百年」、30~42

教師のための文献解題(10) 日本封建社会の諸問題—とくに時代区分の観点から—、佐藤和彦(東大史料編纂所)、43~45

私の卒業論文(29) 空前絶後のべ切厳守 「オレゴン問題の解決」、清水博(立教大学)、46~49

新刊展望 良書めだつ啓蒙書、石川澄雄(駒沢大学)、50~51

寄贈図書、6 お知らせ、42 歴史教育研究所利用規定、42 「歴史教育研究」の購読方法、49 会員消息、52 編集後記、(工藤)、52

第48号 1969年2月

巻頭論文 日本封建制の諸問題—中世史研究の二・三の傾向—、田沼睦(宮内庁書陵部)、1~6

シンポジウム・その一 フランス史の問題点、7~29

シンポジウム・その二 日本封建制の諸問題(第一回)、30~42

教師のための文献解題(11) 東欧史の理解のために—通史・現代史・現状報告—、阪東宏(東大講師)、43~45・42

私の卒業論文(30) 詩人—ドイツ—世界 ヘルデルリンにおけるドイツ的近代性、吉田悟郎(都立広尾高)、46~49

新刊・旧刊 近代百年への反省を深めるために、榛沢俊雄(埼玉県立寄居高等学校)・藤田欽也(京都府立東舞鶴高等学校)・田中晃(岐阜県立斐太実業高等学校)、50

歴史教育者必携の書!! 高等学校社会科世界史教育講座、29 寄贈図書、42 会員消息、51 編集後記、(大江)、51 1968年分「歴史教育研究」バックナンバー総目次45~47号、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第49号 1969年6月

巻頭論文 モザイクの世界史構成への疑問—十八世紀以前は「縦割り」の形をとるべきである—、河合武(埼玉県立浦和西高校)、1~6

シンポジウム・その一 ドイツ史から何を学ぶか、7~27

シンポジウム・その二 日本封建制の諸問題(第二回)—主として近世を中心として—、28

～43

教師のための文献解題(12) 中国史の理解のために―「面白い」中国通史の氾濫に疑問―、久坂三郎(都立一商)、44～46

私の卒業論文(31) 自由な討論から多くの示唆 「中国宋代の農民反乱」、倉員保海(都立立川高)、47～50

新刊・旧刊

日本人と西洋人の差異示す、[鯖田豊之『肉食の思想』中公新書]、北原章(山形県立高島高等学校)、51 戦後史教育への一つの提言、[神奈川県歴史教育者協議会『基地をどう教えるか』明治図書]、花田久(茨城県玉造町立玉造中学校)、51～52 ありのままの幕末・明治、[深谷博治編『写真図説 明治天皇』講談社]、村田安穂(早稲田大学助手)、52 展開形式のまとめが有益、[水野祐『コンパクト日本史整理』教研出版]、朝森要(岡山県立高梁高等学校)、52

寄贈図書、46 歴史教育者協議会第21回大会、52 読者消息、53 編集後記、(工藤)、53 歴史教育研究所評議員名簿、54

第50号 1969年10月 記念特大号

巻頭言 五十号発刊を記念して、(荒井信一)、1

シンポジウム・その一 世界史の可能性(第一回)、2～26

シンポジウム・その二 日本史教育の新構成、27～44

シンポジウム・その三 ロシア革命と現代、45～64

書評的紹介 歴史研究と実践の苦闘、[高橋碩一『歴史教育と歴史意識』青木書店]、佐藤伸雄(歴史教育者協議会)、65～66

お願い、64 会員消息、[3名]、66 寄贈図書、67 編集後記、(荒井)、67 歴史教育研究総索引[創刊号～50号]、67～72 歴史教育研究所評議員名簿、73

第51号 1970年2月 [以後、『歴史教育研究』]

巻頭論文 吾々にとってのイスラムとは何か―「所詮は日本の社会に縁が薄い」存在なのか―、板垣雄三(東京外語大学)、1～6

シンポジウム・その一 世界史の可能性(第二回) 討論後半の部、7～25

シンポジウム・その二 中近東を考える、26～40

教師のための文献解題(13) 「沖縄史」の追求のために―現時点にのみ目を奪われてよいのか―、鈴木亮(都立広尾高校)、42～44

私の卒業論文(32) 革命期の土地分配の過程を追う―イギリス革命における軍隊の問題―、中岡三益(アジア経済研究所)、45～48

寄贈図書、6 編集後記、(工藤)、48 歴史教育研究所評議員名簿、49

第52号 1970年6月

巻頭論文 われわれにとってヨーロッパとは何か、木村尚三郎(東京大学)、1～6

シンポジウム・その一 「新学習指導要領案」を検討する、7～23
シンポジウム・その二 高校紛争と歴史教育、24～39
大学における歴史教育の動向、38～44
書評的感想 「先生は死んだ」か 「教師とは何か」「教育革命」「高校生」にふれて、大江一道（都立上野高）、45～47
書評 若い世代と語る日本の歴史、河合佳枝（都立駒場高）、47～49
私の卒業論文（33） 未完の卒論―「ロバート・オーエン」、吉村徳蔵（法政二高）、49～52
編集後記、（芹沢）、52 歴史教育研究所評議員名簿、53

第53・54号 1973年9月

巻頭言 歴史教育研究再刊の弁、吉岡力、1
シンポジウム・その一 古代国家成立期の日本と朝鮮、2～28
教師のための文献解題(14) 古代日朝関係史理解のために、鈴木靖民、29～30
シンポジウム・その二 歴史教師はいまなにをすべきか、31～47
シンポジウム・その三 アイルランドから世界史を考える、48～67
誌上参加 ダブリンの数日、鈴木正四、68
教師のための文献解題(15) アイルランド史
手許にあるアイルランドの「文献」から、吉村徳蔵、69～70 アイルランド通史、堀越智、70～71 アイルランド二〇〇年、上野格、71～73
対談 モヘンジョ・ダロとインダス文明、三笠宮崇仁（日本オリエント学会会長）・三上次男（青山学院大学教授）・吉岡力（東海大学教授）、74～83
役に立つ史学の先駆者 池島信平、中屋健一、84～85
私の卒業論文(34) 金春禅竹の能楽観及び美的理念―東山文化の性格とその成立―、芳賀幸四郎（大東文化大学）、86～89
書評的感想 <世界>20年の“試行”が語りかけるもの 『歴史認識と世界史の論理』『歴史認識と世界史教育』、〔吉田悟郎著〕、斉藤秋男、90～93
書評 若い世代と語る日本の歴史―近代の諸巻を中心に―、石川澄雄、94～95
寄贈図書、28 寄贈図書、73 評議員近況、84～85 読者だより、96 編集後記、（荒井）、96 歴史教育研究所利用規定、97 四十八年度常任評議員、97

第55号 1974年2月

巻頭言 雑感一つ、大江一道、1
シンポジウム 世界史の中のユダヤ人―ユダヤ人とはなにか―、2～29
教師のための文献解題(16) ユダヤ人問題を理解するために、板垣雄三、30～31
シンポジウム・その二 検討す！日本史新教科書、32～51
私の卒業論文(35) 古代アレクサンドリアにおけるギリシア人のユダヤ人排斥問題、秀村欣二（青山学院大学）、52～55
読者だより、31 寄贈図書、50 紀要53・54号正誤表、56 お知らせ、56 編集後記、（吉

岡)、56 歴史教育研究所利用規定、57 四十八年度常任評議員、57

第56号 1974年7月

巻頭言 教科書について思うこと、菱刈隆永(都立駒場高校教諭)、1
シンポジウム・その一 二十五年目の世界史教育、2～23
シンポジウム・その二 戦後三十年の日本史教育をふりかえって—今何が問題か—、24～49
歴史教育・回顧と展望(1) 歴史教師のよろこび、尾鍋輝彦(元お茶の水大学)、50～64
私の卒業論文(36) 野辺の小道、前嶋信次、65～69
書評 謝世輝『新しい世界史の見方 ユーラシア文明の視点から』、荒井信一、70～71

お願い、49 お知らせ、49 寄贈図書、49 評議員近況、69 紀要 55号正誤表、72 読者だより、72 編集後記、(荒井)、72 歴史教育研究所利用規定、73 四十九年度常任評議員、73

第57号 1974年12月

巻頭言 「大学に入ってからではもう遅く…」、吉田悟郎、1
シンポジウム・その一 朝鮮史の主体的発展—特に近代以前について—、2～21
シンポジウム・その二 これからのアラブ研究、22～42
「歴史教育研究」に今までに扱われたイスラム史に関する主な記事一覧、42
歴史教育・回顧と展望(2) 憲法の学習を足がかりとして、金沢嘉市、43～58
私の卒業論文(37) 海賊の研究事始、別枝達夫(成蹊大学教授)、59～63
書評(1) 今津晃『概説現代史』、尾鍋輝彦(お茶の水女子大学名誉教授)、64～65
書評(2) 小学館『日本の歴史』—第五巻～第八巻—、西田光男(大阪教育大学附属天王寺中・高等学校教諭)、66～67
〈読後感〉 講談社『古代史発掘』(1)、吉村徳蔵(法政大学第二高等学校教諭)、68～69
世界史の構築のために、謝世輝、70～71

読者だより、58 寄贈図書、63 おねがい、編集部、72 編集後記、(工藤)、72 歴史教育研究所利用規定、73 四十九年度常任評議員、73

第58号 1975年4月

巻頭言 歴史教育への願望、清水勝太郎(都立小石川高校長)、1
シンポジウム・その一 中世の封建支配と天皇—会員総会記念講演—、永原慶二、2～22
シンポジウム・その二 古代地中海世界—新しい位置づけをさぐって—、24～48
私の卒業論文(38) ロシア史事始—「ペテルブルクからモスクワへの旅」—、岩間徹(東京女子大学教授)、49～52
書評(1) 前嶋信次『草原に輝く星』[NHK ブックス]、吉田悟郎、53～56・52
書評(2) 浅香正『ローマ文明の跡を訪ねて』[吉川弘文館] 弓削達『素顔のローマ人』[河出書房新社]、大江一道、57～58
書評(3) 三省堂『日本民衆の歴史』3・4・5、鬼頭明成(小石川高校教諭)、59～60
インド史を勉強して思うこと—ムガル皇帝と宗教との関係—、小名康之(東京大学大学院)、

61～62

旅行記 レニングラードであった人たち、荒井知子（山脇学園）、62～64

総会報告 二十年目の会員総会—四十余名でなごやかに—、（大江一道記）、65～66

紀要 57 号正誤表、4 ローマ文明の跡を訪ねて—南フランス・地中海 歴史とロマンの旅—、
23 評議員だより、48 編集後記、（荒井）、66 歴史教育研究所会員名簿、67～74 歴史教育
研究所利用規定、75 五十年常任評議員、75

第59号 1976年3月 —吉岡所長追悼号—

謹告、歴史教育研究所、1

吉岡所長を悼む—追悼講演—、中屋健一、2～4 学生時代の吉岡君、大野真弓、4 浦高に教
えをうけて、村岡清一、5 三十余年の思い出、清水勝太郎、5～6 吉岡先生のこと、久保正
彰、6 今はなき恩師への手紙、加藤洋子・河内美智子、7 弟の思い出、吉岡俊亮、7～8 父
の思い出、木部矩子、8

〈総会報告〉悲しみ深く第二回総会—一九七五年十一月二十九日—、（吉田悟郎記）、9

会員総会記念講演 中国考古学の現状、宮川寅雄、10～17

シンポジウム 隣国諸国と中国の近現代史—一八八〇～九〇、一九二〇～三〇—、18～39

歴史教育回顧と展望(3) 学問の自由を求めて、松島栄一、40～59

私の卒業論文(39) 外交と世論の動き、中村英勝（お茶の水女子大学）、60～63

書評 吉村徳蔵『神話と歴史教育』、直木孝次郎（大阪市立大学教授）、64～65・69

会員の広場

随想 マキャベリズムと天皇制、秋山明、66～67 歴史教育への疑問！疑問！！疑問!!!、酒
井忠雄、67～68 ヨーロッパ見たまま、加畑一夫（前宮城県社会科教育研究歴史部会長）、
68～69

寄贈図書、17 お願い、（編集部）、70 編集後記、（荒井信一）、70 歴史教育研究所利用規
定、71 五十年常任評議員、71 〔報告など〕、歴史教育研究所、72

第60号 1977年3月

巻頭言 再起を期して一時の雌伏、清水勝太郎（所長）、1

シンポジウム 歴史意識を育てる歴史教育—小・中・高の一貫性—、2～25・49

私の卒業論文(40) 薬師寺美術の根源を求めて、家永三郎、26～29

書評 前嶋信次・加藤九祚共編『シルクロード事典』（芙蓉書房刊）、倉員保海、30～31

感想・紹介 大江一道著『歴史を見なおす』、中村匡男、32～33

自著紹介 土井正興・片山誠二郎・堀越智・吉村徳蔵著『新講世界史』〔三省堂〕、吉村徳蔵、34

評議員へのアンケートから 私と歴史教育研究所、〔19名〕、35～42

良き先輩の思い出、尾鍋輝彦、43

足跡をふりかえって 手さぐりの世界史 高校生シンポジウム、高校生、44～45

歴史教育研究所年誌、（野田記）、46～48 歴史教育研究総目次、49～57 歴史教育研究総索
引、64～58 バックナンバーご希望の方へ、65 編集後記、（荒井）、65 五十二年度常任評

議員、65

第61号 1978年6月

巻頭言 不死鳥のように、清水勝太郎（所長）、1
会員総会記念講演 世界史の中のアラブ、板垣雄三、2～6
第四回会員総会報告、大江一道、7～9 育友会会長あいさつ、遊佐士朗、9 二高校長あいさつ、石原寿、10
法政第二高等学校「育友会歴史教育研究所」設立のための育友会と歴史教育研究所との覚書、11～12
移転経過報告、（野田記）、13
私の「古代史への道」、星野良作、14～24
私たちにとって歴史教育とは—高校生「てりこむ」グループ—、26～35

寄贈図書、25 計報 別枝達夫氏、35 法政二高育友会歴史教育研究所利用規定、36 教科書展示会のご案内、36 研究所便り、野田記、37 〔広告〕世界史事典・日本史事典改訂新版、37 編集後記、野田記、38 会費納入のお願い、38 育友会歴史教育研究所案内図、38 〔広告〕朝日移動教室、39 五十三年度常任評議員、39

第62号 1979年3月

巻頭言 “歴史の教訓に学ぶ” こと、中村英勝、1
会員総会記念講演（1） 戦後の日本史教育をふり返って、豊田武、2～7
会員総会記念講演（2） 「二十世紀」の著作あれこれ、尾鍋輝彦、8～14
第五回会員総会報告、大江一道、15
別枝先生を偲んで、荒井信一、16～20
座談会 日本史、教えられたり教えたり—皇国史観から学園紛争までの体験—、21～38
シンポジウム 新指導要領社会科 特に日本史・世界史をどうみるか、39～56
私の卒業論文(41) オアシス国家の解明 「麴氏の高昌国—中世西域における一国家の研究」、三上次男、57～61
書評(1) 永原慶二著「中世内乱期の社会と民衆」 専門家が果たした重要な社会的な役割、中村匡男、62～63
書評(2) 鈴木亮「世界史学習の方法」を読んで〔岩崎書店〕、岡部廣治、64～65

読者だより、56 寄贈図書、61 研究所だより、野田記、66 育友会歴史教育研究所案内図、67 編集後記、（荒井）、67 法政二高育友会歴史教育研究所利用規定、68 五十三年度常任評議員、68

第63号 1979年9月

巻頭言 ある教室の思い出、野田美登里（歴史教育研究所助手）、1
大学入試制度の改善を求めて—共通一次試験と高校教育—、2～22
ダブリン雑感、岡安寿子、23
私の卒業論文(42) 目録だけの卒業論文、藤井千之助（広島大学教授）、24～27

私の卒業論文(43) 「テーヌの史観と史的法論」—戦後の広島文理大、京都大学に学んで—、平田嘉三(広島大学教授)、28～31
図書紹介 宮下啓三著『ウィリアム・テル伝説』(NHK ブックス) —ある英雄の虚実—、吉村徳蔵、32～34

寄贈図書、34 研究所便り、35 編集後記、荒井信一、35 五十四年度常任評議員、35

第64号 1980年3月

巻頭言 共通一次年目に想う、倉員保海、1

会員総会記念講演 ブルガリアとスパルタクス、土井正興、2～11

研究会 「教科書に書かれた朝鮮」をめぐる、12～31

私の卒業論文 卒業論文書けざるの記を書いた卒論—「藤原宮時代について」—、菱刈隆永、32～35

私の卒業論文 イギリス中世社会経済史の事始め—「エドワード四世の商業政策」—、藤田重行、36～40

私の卒業論文 西部劇の舞台にアメリカ史の原点を求めて—アメリカ史におけるフロンティアの一考察—、大熊圭祐(岡山県立岡山芳泉高等学校教諭)、40～44

書評 正しいアフリカ史像の理解のために、平野良、45～47

図書紹介 梶井陟著「朝鮮語を考える」(龍溪書館)、荒井信一、47～49

教科書と私たち、吉村徳蔵、50～53

寄贈図書、44 訃報 豊田武氏、49 会員だより、53 編集後記、荒井信一、53 研究所だより、54 育友会歴史教育研究所案内図、55 五十四年度常任評議員、55

第65号 1980年10月

巻頭言 モノで示される歴史教育、荒井信一、1

研究会 ロシアの革命とレーニン、2～21

「中世史シンポジウム」参加記 オルレアン解放五五〇年記念、高山一彦、22～32

豊田武先生を偲ぶ、池永二郎、33～35

私の卒業論文(47) 古代の農民像を求めて、宮原武夫、36～39

私の卒業論文(48) 卒論書かざるの記、三笠宮崇仁、40～43

ブカレスト国際歴史学会議 —吉田悟郎氏にきく— 歴史教育の初の国際討議—五年後に西ドイツでふたたび—、44～55

書評 遠山茂樹著『歴史学から歴史教育へ』(岩崎書店)、黒羽清隆(静岡大学助教授)、56～58

近刊予告 『歴史学への旅立ち—私の卒業論文—』仮題(三省堂)、(野田記)、32 寄贈図書、35 寄贈図書、58 寄贈資料、58 会員の声、58 研究所だより、(野田記)、59 編集後記、(大江一道)、59 第七回会員総会のお知らせ、60 五十五年度常任評議員、60

第66号 1981年4月

巻頭言 教科書問題を政争にすることを憂う、吉村徳蔵（法政大学第二高等学校教諭）、1
第七回会員総会記念シンポジウム 遠山茂樹著「歴史学から歴史教育へ」をめぐって、2～17
第七回会員総会報告、18～19

研究会 近代のイギリスとアジア ―加藤祐三『イギリスとアジア』（岩波新書）をめぐって
一、20～40

一反歩の畑を耕して―加藤祐三氏の横顔―、遠藤節昭（法政大学第二高等学校教諭）、40
真の発案者は東大新聞 『歴史学への旅立ち』発刊に寄せて、工藤泰（都立駒場高等学校教諭）、41～43

書評（1） 野原四郎・増井経夫他著『中国文化史・近代化と伝統』（研文出版）―中国をまるごとつかむために、鈴木亮（都立町田高校教諭）、44～45

書評（2） 平川祐弘著『小泉八雲 西洋脱出の夢』（新潮社）、大江一道（跡見女子大学助教授）、46～48

書評（3） フィリップ・トインビー編、大西洋三・川成洋・結城哲・山口晴美訳『回想のスペイン戦争』（彩光社）、荒井信一（茨城大学教授）、48～50

寄贈図書その1、43 寄贈図書その2、51 会員の声、51 研究所だより、野田記、52 編集後記、（大江）、52 五十五年度常任評議員、53

第67号 1981年12月

巻頭言 中国での驚き、二つ、菱刈隆永（東京都立八王子東高校校長）、1
シンポジウム 教科書問題を衝く、2～21 会員からよせられたご意見 教科書はどうあるべきか、21～24

研究 ゆたかな中世史像をもとめて、25～48 網野善彦氏著作目録、48～52

目で読む国際電話 プロイセンブーム余聞、石川澄雄・石川佐栄子、53～57

書評 大江一道・山崎利男『物語世界史への旅』（山川出版社）、橘孝（法制第二高校）、58～59

会員各位へお願い、52 寄贈図書 その1、57 寄贈図書 その2、60 研究所だより、（野田記）、60 編集後記、（大江）、61 五十六年度常任評議員、61

第68号 1982年5月

巻頭言 女性史学の開幕、石川澄雄（駒沢大学教授）、1

第八回会員総会記念講演 国立歴史民俗博物館と私、井上光貞、2～15

第八回会員総会報告 ―歴史教育・歴史研究の交流の場を拓けて―、16～17

研究会 四年間の功罪を問う ―共通一次試験と世界史教育―、18～34

風間泰男先生逝く 育つことを教えた歴史教育、清水勝太郎、35～36 風間泰男先生を偲んで、菱刈隆永、36～37

図書紹介 堀越智著「アイルランド民族運動の歴史」（三省堂）、岡安寿子（歴史教育研究所助手）、38～40

書評 八木あき子著『二十世紀の迷信 理想国家スイス』（新潮社）、吉村徳蔵（法政二高）、42～44

研究会のお知らせ、34 寄贈図書紹介、40～41 六十七号正誤表、44 会員の声、45 研究所だより、46 編集後記、47 五十七年度常任評議員、47

第69号 1982年12月

巻頭言 歴史教育に思う、西田光男（大阪教育大学附属天王寺中・高等学校）、1

研究会 教科書における「侵略」と「進出」の背景、2～16 追記、17～18

研究会 一九二〇年代の文化と大衆、19～43

世界史入試問題に思う 一五十七年度の悪問の分析を通じて一、清水勝太郎、44～46

書評 角山榮・川北稔編『路地裏の大英帝国』—イギリス都市生活史—〔平凡社〕、大熊圭祐（岡山県立岡山芳泉高校）、47～48

書評 古島敏雄著『子供たちの大正時代』〔平凡社〕、鳥山進（長野県飯田女子高校）、49～50

書評 上木敏郎著『土田杏村と自由大学運動』〔誠文堂新光社〕、大江一道（跡見学園女子大学）、51～53

二つの見学会参加記

その一 中近東文化センター見学会、野田美都理記、54 その二 ファッションの流れを訪ねて—シルクロード見学会—、遠藤久美子記、55

会員の声、56 研究所だより、（野田記）、56～57 寄贈図書紹介、57～58 編集後記、（編集長）、59 五十七年度常任評議員、59

第70号 1984年12月

巻頭言 研究所の新活動方針、荒井信一、1

研究会 近代における「国民史」成立の思想的前提、2～26

研究会 『まんが日本の歴史』（小学館）制作秘話、26～36

旅行エッセー バリ島で考えたこと—体験的世界史遍歴抄—、吉田悟郎、37～39

旅行エッセー ロマネスク・ゴシックの旅、小林克則（神奈川県立厚木南高校）、39～40

書評 マーガレット・コール著『ウェブ夫人の生涯』久保まち子訳 松宮道子解題〔誠文堂新光社〕、岡安寿子（歴史教育研究所助手）、41～43

書評 フォーチュン版『大日本帝国』の研究 熊沢安定訳〔現代史出版会〕、前田丈志（雄山閣出版編集部）、44～48

図書紹介 私のブック抄 五題、吉村徳藏、48～50

井上さんを悼む 死せる井上さん、歴博友の会を走らす！、菱刈隆永、50～52

寄贈図書紹介（1）、40 寄贈図書紹介（2）、53 会員の声、54～55 昭和57年度育友会歴史教育研究所会計報告・昭和58年度育友会歴史教育研究所会計報告、56 研究所だより、（野田記）、57 お知らせ、57 編集後記、（大江）、59 五十九年度常任評議員、59

第71号 1986年1月

巻頭言 今こそ現代史教育を、中村匡男（都立桜町高校）、1

会員総会記念シンポジウム 三笠宮崇仁著「古代オリエント史と私」をめぐって、2～17

太平洋戦争の終結と空襲、荒井信一、18～31

『海外文化と女性』研究会発足のお知らせ—国際結婚の手記を手がかりに—、野田記、32～33

私のささやかな日中交流 閻さんと周さんのこと、野田美都里（研究所助手）、34～35

移転報告 五回目の研究所転居、野田記、33 歴史教育研究所年誌、36～39 会員の声、43～45・31・39 寄贈図書紹介（1）（2）、40～41 研究所だより、大橋記、42～43 編集後記、（大江）、45 六十年度常任評議員、45

第72号 1987年2月

巻頭言 歴史教育の危機、清水勝太郎、1

近世史で考えなおしたいこと、塚本学（国立歴史民俗博物館教授）、2～5

授業実践 東アジアの変動と鎖国政策、鬼頭明成（東京都立戸山高校）、6～12・58

史料活用授業記録 天明の飢饉、加藤正彦（大阪府立大塚高校）、13～25

松島栄一先生にきく—江戸時代について—、編集部、26～34

小判のあるスクエアー「江戸」私考一、黒羽清隆（静岡大学教授）、35～44

会員アンケート 「江戸時代」について、44～50

国際シンポジウム 「シーボルトと日本の近代化」傍聴記、野田美都里、50

ブックレビュー 野口武彦『江戸のわかもの考』を読む、大江一道（跡見学園女子大学教授）、51～54

寄贈図書紹介（1）、54 会員の近況、55～56 寄贈図書紹介（2）、56 研究所だより、（野田記）、57 編集後記、（大江）、58 六十一年度常任評議員、59

第73号 1988年3月

巻頭言 退職教師の軌跡、工藤泰（世界史教育フリーライター）、1

歴史よもやま話 金沢誠先生を囲んで、2～17

緊急会員アンケート 「社会科」解体と「世界史」必修について、18～41

ある高校生の進路決定—ぼくは史学科をえらんだ—、41

下総国湖沼地帯の親鸞集団、河田光夫（大阪府立今宮工業高校定時制）、42～59

ジョルジュ・サンドの伝記を書き上げて、池田孝江（女子美短大）、60～61

会員だより、62～63 寄贈図書紹介（1）、63 寄贈図書紹介（2）、64 昭和61年度育友会歴史教育研究所会計報告、64 研究所だより、（野田記）、65 編集後記にかえて一日の丸弁当論争一、（野田記）、65 六十二年度常任評議員、66

第74号 1990年3月

巻頭言 ダンボールが五十箱、吉村徳蔵、1

研究会 ポーランド史と歴史教育—民族運動の高まりの中で—、2～16

追悼 今関先生を偲ぶ、清水勝太郎、16

「自国史と世界史」の課題—第二回東アジア歴史教育シンポジウムから—、鬼頭明成（都立

戸山高校教諭)、17～23

〈囚われの聴衆〉と新学習指導要領(社会科)の問題点、渡辺賢二(法政二高教諭)、24～29
追悼 江口先生の残されたテープ、野田美都里、30～31

それぞれの回帰(その一) 故郷、青島を訪ねる旅、庄野蕙子(元助手)、32～34 (その二)
三十三年目のヨーロッパ旅行、早川美代子(“女性史の会”会員)、34～36 (その三) 四
十二年ぶりの大連、野田美都里、36～38

“海外文化と女性”研究会報告、大橋登代子、39～40

オリエントの文化を訪ねて—中近東文化センター見学記—、(野田記)、41

「日本の物語絵展」見学記—チェスター・ビーティコレクション—、(野田記)、44

寄贈図書紹介(1)、23 寄贈図書紹介(2)、29 寄贈図書紹介、42～43 昭和63年度育友会
歴史教育研究所会計報告、44 研究所だより、(大橋記)、45 編集後記、木村宏一郎、46 平
成二年度常任評議員、46

第75号 1992年3月

巻頭言 これでもいいのかと思うこと、野々瀬協子(和洋女子大学附属国府台女子高校非常勤
講師)、1

研究会 『ゲルニカ物語』(荒井信一著)をめぐって、2～25

追悼 金沢誠先生—華麗なるフランス史と共に— 吉村徳蔵先生—民主的歴史教育に捧げた
一生—、26～32

吉村徳蔵先生のご遺稿 ぼくの授業は“円月殺法”、33～34

ブックレビュー 思想の海へ〔解放と変革〕3 『江戸期の開明思想』(社会評論社) 杉浦明
平・別所興一編著—世界へ開く・近代を耕す—、菱刈隆永、35～36

「アジアの中の日本」という視点の大切さ—木村宏一郎著『インドネシア』(岩崎書店) から
学ぶもの—、渡辺賢二(法政二高)、36～39

旅行記(その一) 大連再訪—伝説はひとりあるきするか—、野田美都里、40～41 旅行記(そ
の二) ヨーロッパの旅—感動のパリ—、庄野蕙子、41～43 旅行記(その三) 常夏の国のク
リスマスとお正月、大橋登代子、43～45 旅行記(その四) スコットランド瞥見、岩見寿子
(成城学園)、45～47

見学会 国立歴史民俗博物館、榎本勝己、50

平成元年度育友会歴史教育研究所会計報告、34 寄贈図書紹介、39 平成五年度用教科書展
示会、47 平成2年度育友会歴史教育研究所会計報告、47 寄贈図書一覧、48～49 研究所
便り、50～51 編集後記、木村宏一郎、52 平成四年度常任評議員、52

第76号 1993年3月

巻頭言 「歴史は繰返す」のであろうか、綿引弘(桐朋学園)、1

研究会 イスラム世界を理解するために、三木亘、2～15

アラビアのコスチューム、池田孝江、15～16

研究会 大江一道著『世界近現代全史Ⅰ』をめぐって、17～33

寄稿 入試問題に思うこと、清水勝太郎、34～36

寄贈図書紹介（その1）吉村徳蔵著『歴史教育のたのしみ』、榎本勝己、37 （その2）「吉村文庫」について、37～38 （その3）『南京事件資料集』一九九二年 南京事件調査研究会編訳 青木書店、池田孝江、38 （その4）『世界テニス行脚ロマンの旅』太田芳郎著 （平成四年七月）、木村宏一郎、39

追悼 大橋登代子さん逝く 弔辞、野田美都里、40～41

会費納入のお願い、33 電話番号変更のお知らせ、39 研究所だより、42 編集後記、（木村記）、42 平成四年度常任評議員、43

第77号 1995年4月

巻頭言 世界史教科書・今後の課題、謝世輝（東海大学教授）、1

研究会（一） 「世界史教育」四十五年と世界史学、吉田悟郎、2～16

研究会（二） 北米先住民とアメリカ史教育、白井洋子（東京国際大学）、17～25

図書紹介（1） 平川南著『よみがえる古代文書—漆に封じ込められた日本社会』〔岩波新書〕、菱刈隆永、26～27

図書紹介（2） 小寺武久著「尾張藩江戸下屋敷の謎」（中公新書）・新宿区立歴史博物館「尾張徳川家江戸山屋敷への招待（平成四年企画展図録）」（新宿区教委）、倉員保海、28～30

図書紹介（3） 歴史教育論の発展をめざして—『歴史教育論』を編んで、渡辺賢二（法政二高）、30～32

土井文庫について、（野田記）、32～33

研究所だより、（野田記）、33 寄贈図書紹介（1）、33 寄贈図書紹介（2）、34 お知らせ、34 平成5年度育友会歴史教育研究所会計報告、35 編集後記、（榎本記）、35 お知らせ、36 平成六年度常任評議員、36

第78号 1996年4月

巻頭言 中国との交流で痛感したこと、佐藤伸雄（歴史教育者協議会副委員長）、1

研究会 阪東宏著「ポーランド人と日露戦争」をめぐって、2～14

研修レポート 日本占領期における東南アジア・太平洋地域—台湾人軍属とアンダマン・ニコバル諸島を例にして、木村宏一郎（法政二高）、15～28

追悼 清水勝太郎先生逝く、29～32

満映フィルムを上映して、野田美都里、33～34

平成6年度育友会歴史教育研究所会計報告、28 寄贈図書紹介、35 研究所だより、36 編集後記、（木村記）、36 平成七年度常任評議員、36

第79号 1997年7月

巻頭言 二十世紀後半に連続したもの、断絶・喪失したもの、吉田悟郎、1

中国の旅 中国での見聞あれこれ、佐藤伸雄、2～14

愛新覚羅顕琦さんと日本語学校、菱刈隆永、15～19・24

岫岩の旅—満族・玉石・抗日戦—、野田美都里、20～24

高校生とともに従軍慰安婦問題を考える、渡辺賢二、25～27

追悼 尾鍋輝彦先生、28～33

追悼 秀村欣二先生、34～37

読書の勧め 林健太郎著作集（全四巻 山川出版社）、石川澄雄、38～40

中近東文化センター見学に参加して、野々瀬協子、40～41

教科書展示会、27 平成8年度育友会歴史教育研究所会計報告、27 寄贈図書紹介、37 研究所だより、(野田)、41 編集後記、(木村)、42 平成八年度常任評議員、42

第80号 2002年3月

設立時に定めた設立趣意書と定款 歴史教育研究所設立趣意書 定款、〔表紙裏〕

終刊の辞、荒井信一、1

研究会(一) 中国国民革命とわたしたちの中国認識—栃木利夫・坂野良吉著『中国国民革命』をめぐって—、栃木利夫（法政大学教授）、2～10

研究会(二) 『「皇国の姿」を追って』をめぐって—体験者が集まって—、磯田一雄・他、11～25

特別寄稿 日本における古代オリエント文明研究史—二〇〇〇年 NHK 放送七十五周年事業「世界四大文明フォーラム」特別講演—、三笠宮崇仁、26～36 古代オリエント史入門心得十箇条、三笠宮崇仁、36～38

『歴史教育研究』最終号を刊行するにあたって、荒井信一、39

歴史教育研究所についてのご意見、40～43

研究所とわたし、44～60

荒井信一・大野真弓・石川澄雄・吉田悟郎・菱刈隆永・倉員保海・大江一道・三木亘・大熊圭祐・西田光男・綿引弘・倉持俊一・庄野蕙子・野々瀬協子・滝本幸子・野田美都里・柏木京子・遠藤久美子

書評 『忘れられた戦争責任—カーニコバル島事件と台湾人軍属』(木村宏一郎著、青木書店)、渡辺賢二、61

寄贈図書紹介、62 研究所だより、63 編集後記、榎本勝己、64 常任評議員、64

正誤表

「歴史教育研究所編『歴史教育研究』（1956～2002 年）総目次」『歴史教育史研究』第7号（2009 年度）

頁・行	誤	正
76 頁 23 行目	（法制第二高校）	（法政第二高校）